

専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン

(1) 学校の概要、目標及び計画

学校理念	努力・礼節・奉仕の三信条のもとに、人に信頼され、且つ人を愛し、人を信頼する介護福祉士を育成。技能実習は少人数制でないと身につかないという確信から、介護技術などの実習授業は、20人以下のクラス編成で行い、徹底した専門教育と実技指導により、各種の福祉のニーズに対応できる介護福祉士を養成します
経営理念	全教職員の物心両面の幸福を追求すると同時に、教育関連産業を通じて、社会に貢献する
理事長訓	下関学院は地元の人に可愛がられる学院にしなければいけない。学生のためにも、学院を良く理解してもらい、下関学院が小月にあって良かったと、地元の人に思われる学院にしなければいけない
校長名	関谷 豊
所在地	〒750-1144 山口県下関市小月茶屋3丁目4番26号
連絡先	TEL:083-283-0294 FAX:083-282-0014
学校の沿革	昭和13年 4月 創設者関谷フミが和洋裁女学院開校 昭和39年10月 学校法人下関学院の組織昇格 平成 9年 4月 厚生労働大臣指定・下関福祉専門学校開校(介護福祉学科)
その他諸活動	年2回(6月・2月)の防災訓練 年1回(5月)の健康診断

(2) 介護福祉学科の教育

受け入れ方針	性別・年齢不問、人柄と介護に対する意欲・関心を重視
入学者数	28名
収容定員	80名
在学学生	1・2年合わせて 69名(うち離職者訓練生42名) 平成26年3月現在
時間割	別紙参照 資料(1)
授業内容	別紙参照 資料(2)
成績評価基準	成績評価は、単に成績だけで行うものではなく、試験の成績に平素の学習状況、出席状況、レポートの提出状況などを加味した上で総合的に行う 出席時間数が講義・演習の3分の2、実習5分の4以下の場合には、理由の如何を問わず、単位を認定しない 成績の評価は、100点を最高点とし、80点以上優、70点以上良、60点以上可、59点以下不可とする
卒業要件	卒業に必要な単位数を取得し、卒業試験を受けた者
資格	介護福祉士及び教育・社会福祉専門課程専門士
資格取得実績	平成26年度3月 40名
卒業生	平成26年度3月 40名
卒業後の進路	進学者数 名 主な進学先:看護リハビリテーション学校 就職者数 38名 主な就職先:特別養護老人ホーム、老人保健施設、医療施設等

(3) 教職員

教職員組織	校長1名、専任教員5名、事務員2名
専任教員	男1名 介護福祉士 女4名 介護福祉士2名、看護師1名、修士1名)
教員の専門性	平岡慶介 1年担任 資格:介護福祉士、介護支援専門員、介護教員講習修了 担当科目:生活支援技術Ⅰ・Ⅱ、介護の基本Ⅱ・Ⅳ ケアマネジメント論、介護総合演習 松寄芳江 2年担任 資格:看護師、介護支援専門員、介護教員講習修了、医療的ケア教員講習修了 担当科目:発達と老化の理解Ⅱ、認知症の理解Ⅰ・Ⅱ 医療的ケア・演習 小池真里子 資格:介護福祉士、介護教員講習修了 担当科目:介護の基本Ⅰ・Ⅲ、生活支援技術Ⅰ・Ⅱ、介護総合演習 藤岡恵子 資格:介護福祉士、介護支援専門員、介護教員講習修了 担当科目:人間の理解、発達と老化の理解Ⅰ、介護過程の基礎Ⅰ・Ⅱ 介護過程事例演習、こころとからだのしくみⅢ 松田典子 資格:修士、介護教員講習修了 担当科目:コミュニケーション技術概論、コミュニケーション技術各論Ⅰ こころとからだのしくみⅠ、人間関係論

(4) キャリア教育・実践的職業教育

実習の取組み	実習Ⅰ：1学年・6日間の見学実習 2学年・3日間訪問介護同行実習 実習Ⅱ：1学年・10日間施設実習 2学年・18日間、27日間の施設実習
学内での実技	生活支援技術の授業の他、適宜実施
就職支援	2学年時・前期90分2回の就職支援授業を実施 相談：職員室または、併設の会議室等において就職相談 学生の希望により随時実施 担当：就職支援担当者、担任 求人情報：ファイルに整理し、図書室にて午前8時45分より午後5時まで随時閲覧可能 インターネットによる閲覧も可能

(5) 様々な教育活動・教育環境

主な学校行事	4月入学式、新入生オリエンテーション、新入生宿泊研修 6月バレーボール大会 7月野外活動・キャンプ 8月夏休み 11月研修旅行 12月学園祭(海峡祭) 2月ケーススタディー発表会 2月ボウリング大会 3月卒業式
課外活動	施設ボランティア依頼要項を随時配布、掲示を行い参加者募集している サークル活動：バトミントン同好会、大正琴アンサンブルバンド

(6) 学生の生活支援

取組み状況	学生からの要望により心身の健康に対して、適宜専門の教員によるカウンセリングを行う 長期欠席等に関しては、電話や文書による連絡を密に行う 中途退学の防止に対して、適宜担任他教員が個人的に面談を行い、本人の希望に沿うよう努力する
-------	--

(7) 学生納付金・就学支援

学生納付金の取り扱い	入学金：150,000円 授業料：600,000円 施設・設備費230,000円 入学金は入学時のみ徴収する 授業料、施設・設備費は年額とする 納期：入学金、入学許可後10日以内に納入 1年次前期納入日、3月末日 2年時以降前期納入日、4月末日 後期納入時、9月末日 施設・設備費、3月末日
経済的支援措置の内容	特待生制度：成績優秀者のほか、クラブ活動・生徒会活動等の経験者、特技や資格の3級以上ある方に授業料を5万円～120万円まで免除する 特別奨学金：入学と卒業時に、準備金各20万円、在学中は毎月5万円(2年間で160万円)が無利子で融資される。また、卒業後、融資した都道府県の施設で5年間働けば、返還が全額免除される 下関学院奨学生制度：家計の事情により就学が困難と認められる者に対して授業料の一部免除を行う 自立支援制度：家庭の事情により自らのお金で入学し、卒業しようとする方に対して日本学生支援機構奨学金申し込みにより入学時納入金を入学後に支払う事ができる 学費分納制度：家庭の事情に併せて、学費を毎月分割納入できる

(8) 学校財務

収支決算書	別紙参照 資料(3)
-------	------------

(9) 学校評価

自己評価 学校関係者評価 改善対策	別紙参照 資料(4)(5)(6)
-------------------------	------------------

(4) キャリア教育・実践的職業教育

実習の取組み	実習Ⅰ：1学年・6日間の見学実習 2学年・3日間訪問介護同行実習 実習Ⅱ：1学年・10日間施設実習 2学年・18日間、27日間の施設実習
学内での実技	生活支援技術の授業の他、適宜実施
就職支援	2学年時・前期90分2回の就職支援授業を実施 相談：職員室または、併設の会議室等において就職相談 学生の希望により随時実施 担当：就職支援担当者、担任 求人情報：ファイルに整理し、図書室にて午前8時45分より午後5時まで随時閲覧可能 インターネットによる閲覧も可能

(5) 様々な教育活動・教育環境

主な学校行事	4月入学式、新入生オリエンテーション、新入生宿泊研修 6月バレーボール大会 7月野外活動・キャンプ 8月夏休み 11月研修旅行 12月学園祭(海峡祭) 2月ケーススタディー発表会 2月ボウリング大会 3月卒業式
課外活動	施設ボランティア依頼要項を随時配布、掲示を行い参加者募集している サークル活動：バトミントン同好会

(6) 学生の生活支援

取組み状況	学生からの要望により心身の健康に対して、適宜専門の教員によるカウンセリングを行う 長期欠席等に関しては、電話や文書による連絡を密に行う 中途退学の防止に対して、適宜担任他教員が個人的に面談を行い、本人の希望に沿うよう努力する
-------	--

(7) 学生納付金・就学支援

学生納付金の取り扱い	入学金：150,000円 授業料：600,000円 施設・設備費230,000円 入学金は入学時のみ徴収する 授業料、施設・設備費は年額とする 納期：入学金、入学許可後10日以内に納入 1年次前期納入日、3月末日 2年時以降前期納入日、4月末日 後期納入時、9月末日 施設・設備費、3月末日
経済的支援措置の内容	特待生制度：成績優秀者のほか、クラブ活動・生徒会活動等の経験者、特技や資格の3級以上ある方に授業料を5万円～120万円まで免除する 特別奨学金：入学と卒業時に、準備金各20万円、在学中は毎月5万円(2年間で160万円)が無利子で融資される。また、卒業後、融資した都道府県の施設で5年間働けば、返還が全額免除される 下関学院奨学生制度：家計の事情により就学が困難と認められる者に対して授業料の一部免除を行う 自立支援制度：家庭の事情により自らのお金で入学し、卒業しようとする方に対して日本学生支援機構奨学金申し込みにより入学時納入金を入学後に支払う事ができる 学費分納制度：家庭の事情に併せて、学費を毎月分割納入できる

(8) 学校財務

収支決算書	別紙参照 資料(3)
-------	------------

(9) 学校評価

自己評価 学校関係者評価 改善対策	別紙参照 資料(4)(5)(6)
-------------------------	------------------

時 間 割

(1年前期)

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス
1 9:00 ～ 10:30	社会の理解	社会の理解	生活支援技術Ⅰ	家政学Ⅰ	家政学概論	家政学概論	法と人権	法と人権	介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅰ
	田中逸夫	田中逸夫	小平池岡	塩田	関谷慶子	関谷慶子	関谷豊	関谷豊	小池	小池
2 10:40 ～ 12:10	社会の理解	社会の理解	生活支援技術Ⅰ	家政学Ⅰ	人間の理解	人間の理解	介護の基本Ⅱ	介護の基本Ⅱ	のしくみⅡ のしくみⅡからだ	のしくみⅡ のしくみⅡからだ
	田中逸夫	田中逸夫	小平池岡	塩田	藤岡	藤岡	平岡	平岡	落合	落合
3 13:10 ～ 14:40	のしくみⅠ のしくみⅠからだ	のしくみⅠ のしくみⅠからだ	家政学Ⅰ	生活支援技術Ⅰ	発達と老化の理 解Ⅱ	発達と老化の理 解Ⅱ	Ⅰ 介護過程の基礎	Ⅰ 介護過程の基礎	総合演習Ⅰ	総合演習Ⅰ
	松田	松田	塩田	小平池岡	松寄	松寄	藤岡	藤岡	平岡小池	平岡小池
4 14:50 ～ 16:20	コミュニケーション 技術総論	コミュニケーション 技術総論	家政学Ⅰ	生活支援技術Ⅰ						
	松田	松田	塩田	小平池岡						

時 間 割

(1年後期)

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス
1 9:00 ～ 10:30	認知症の理解Ⅰ	認知症の理解Ⅰ	生活支援技術Ⅰ		のこころとくみⅢからだ	のこころとくみⅢからだ	トケアマネジメン論	トケアマネジメン論	介護の基本Ⅲ	介護の基本Ⅲ
	松寄	松寄	小平池岡		藤岡	藤岡	平岡	平岡	小池	小池
2 10:40 ～ 12:10	総合演習Ⅱ	総合演習Ⅱ	生活支援技術Ⅰ		障害の理解Ⅰ	障害の理解Ⅰ	Ⅱ介護過程の基礎	Ⅱ介護過程の基礎	精神保健	精神保健
	小平池岡	小平池岡	小平池岡		藤田	藤田	藤岡	藤岡	落合	落合
3 13:10 ～ 14:40	人間関係論	人間関係論		生活支援技術Ⅰ	発達と老化の理解Ⅰ	発達と老化の理解Ⅰ	レクリエーション概論	レクリエーション概論	総合演習Ⅱ	総合演習Ⅱ
	松田	松田		小平池岡	藤岡	藤岡	信田	信田	平岡小池	平岡小池
4 14:50 ～ 16:20	Ⅰコミュニケーション技術各論	Ⅰコミュニケーション技術各論		生活支援技術Ⅰ					総合演習Ⅱ	総合演習Ⅱ
	松田	松田		小平池岡					平岡小池	平岡小池

時 間 割

(2 年前期)

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス
1 9:00 ～ 10:30	介護の基本Ⅳ	介護の基本Ⅳ	障害の理解Ⅱ	障害の理解Ⅱ	生活支援技術Ⅱ	情報処理	介護事例演習	介護事例演習	シリハビ ン論 リテ	シリハビ ン論 リテ
	平岡	平岡	小原	小原	小平池岡	田中	藤岡	藤岡	山崎	山崎
2 10:40 ～ 12:10	家政学Ⅱ（住居）	家政学Ⅱ（住居）	認知症の理解Ⅱ	認知症の理解Ⅱ	生活支援技術Ⅱ	情報処理	介護事例演習	介護事例演習	総合演習Ⅲ	総合演習Ⅲ
	金谷	金谷	藤岡	藤岡	小平池岡	田中	藤岡	藤岡	小平池岡	小平池岡
3 13:10 ～ 14:40			Ⅱ ショ ン技術各論	Ⅱ ショ ン技術各論	情報処理	生活支援技術Ⅱ	レク・野外活動	レク・野外活動	音楽療法	音楽療法
			古殿	古殿	田中	小平池岡	信田	信田	熊野	熊野
4 14:50 ～ 16:20					情報処理	生活支援技術Ⅱ			音楽療法	音楽療法
					田中	小平池岡			熊野	熊野

時 間 割

(2年後期)

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス	Aクラス	Bクラス
1 9:00 ～ 10:30	介護の基本Ⅳ	介護の基本Ⅳ	福祉と文化	福祉と文化	生活支援技術Ⅱ		介護事例演習	介護事例演習	総合演習Ⅳ	総合演習Ⅳ
	平岡	平岡	坪郷	坪郷	小平池岡		藤岡	藤岡	平小岡池	平小岡池
2 10:40 ～ 12:10	家政学Ⅱ（被服）	家政学Ⅱ（被服）	福祉と文化	福祉と文化	生活支援技術Ⅱ		介護事例演習	介護事例演習	総合演習Ⅳ	総合演習Ⅳ
	関谷公子	関谷公子	坪郷	坪郷	小平池岡		藤岡	藤岡	平小岡池	平小岡池
3 13:10 ～ 14:40						生活支援技術Ⅱ				
						小平池岡				
4 14:50 ～ 16:20						生活支援技術Ⅱ				
						小平池岡				

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の理解		授業の種類 ☒ 講義・演習	授業担当者 藤岡 恵子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し介護現場における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を培う。 [授業全体の内容の概要] 介護実践の基礎となる「人間の理解」を図り、介護における尊厳の維持と自立支援の在り方について考え、心身の状況に応じた介護の在り方について考察する。また、学習内容を深めるためにグループワークによる学生同士の討論を実施する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 1.介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養できる。 2.人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要性について理解できる。 3.人間が主体的に自己の生活を営もうとすることが自立であると、捉えることができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 <u>人間の尊厳と自立</u> 2 人間理解と尊厳の意義①（人間理解と尊厳の考え方） 3 人間理解と尊厳の意義②（「人間」の多面的理解・自己理解・他者理解） 4 尊厳と自立をめぐる人間の歴史 5 尊厳と自立にかかわる実情と課題 6 生活を通した尊厳と自立の理解①（実情と課題） 7 生活を通した尊厳と自立の理解②（生活をするということ） 8 <u>介護における尊厳の保持・自立支援①</u>（権利擁護と人権尊重） 9 <u>介護における尊厳の保持・自立支援②</u>（介護における自立支援） 10 介護における尊厳保持の実践 11 介護における自立支援の実践 12 自立・自律生活を支える介護 13 自立・自律した生活を支える介護 14 身体的・精神的・社会的な自立支援 15 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 「新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席・授業態度（30%） 試験（70%）	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係論		授業の種類 講義・演習	授業担当者 松田典子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う [授業全体の内容の概要] 人間関係論はヒューマン・リレーションの概念に始まり、対人関係などの発達心理学や社会心理学の対象と分化し、さらに心理・医療・教育の臨床の領域で重要な概念となっている。 これらを踏まえ、人間関係形成からコミュニケーションの基礎について演習を交えて授業を展開する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 対人理解のための基礎的な心理学的知識を習得し、介護の現場で役立つコミュニケーション能力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 関係づくりのための人間の理解① 個々の認知世界 2. 関係づくりのための人間の理解② ストレスを考える 3. 関係づくりのための人間の理解③ 利用者のとらえ方 4. 人間関係の形成① 発達と人間関係 5. 人間関係の形成② 介護職支援と人間関係 6. コミュニケーションの基礎① コミュニケーションとは 7. コミュニケーションの基礎② コミュニケーションの目的と方法 8. コミュニケーションの技法と実際① 9. コミュニケーションの技法と実際② 10. コミュニケーション障害事例① 11. コミュニケーション障害事例② 12. コミュニケーション障害事例③ 13. コラージュ療法① 14. コラージュ療法② 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 「新・介護福祉士養成講座 人間の理解」 中央法規		[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・提出物・筆記試験	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解		授業の種類 講義		授業担当者 田中 逸夫
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間（4単位）	配当学年・時期 1年・通年		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい]				
1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人・家族・近隣・地域社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助・共助・公助について理解する。				
2. わが国の社会保障の基本的な考え方・歴史と変遷・仕組について理解する。				
3. 近年の社会福祉制度に大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎知識を習得する。				
4. 介護実践に必要な観点から、個人情報保護・成年後見制度・生活保護制度などについて、基礎的知識を習得する。				
[授業全体の内容の概要]				
1. 生活と社会福祉について				
2. 社会保険制度について				
3. 介護保険制度について				
4. 障害者自立支援制度について				
5. 介護実践にかかわる諸制度について				
[授業修了時の達成課題（到達目標）]				
社会保障全般及び社会福祉の各種制度について理解し、介護の現場で役立つ人材になる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
コマ数				
1. はじめに				
私たちの生活と社会福祉		1 生活の構造		
2. "		2 家族とは		
3. "		3 地域社会と個人		
		4 人と社会、組織		
4. "		5 現代におけるライフスタイルの変化		
5. 生活の支援と福祉の体系				
6. 社会保障の仕組み		1 社会保障の基本的な考え方		
7. "		2 日本の社会保障制度の発達（その1）		
8. "		2 日本の社会保障制度の発達（その2）		
9. "		3 日本の社会保障制度の仕組み（その1）		
10. "		3 日本の社会保障制度の仕組み（その2）		

11.	〃	4 現代社会と社会保障制度（その１）
12.	〃	4 現代社会と社会保障制度（その２）
13.	介護保険制度のあり方	1 介護保険制度創設の背景と目的（その１）
14.	〃	1 介護保険制度創設の背景と目的（その２）
15.	〃	2 介護保険制度の仕組み（その１）
16.	〃	2 介護保険制度の仕組み（その２）
17.	〃	3 介護保健制度にかかわる組織とその役割（その１）
18.	〃	3 介護保険制度にかかわる組織とその役割（その２）
19.	〃	4 介護保険制度における専門職の役割
20.	〃	5 介護保険制度の動向
21.	障害者の自立支援を担う法制度のあり方	1 障害者の自立
22.	〃	2 障害者自立支援制度の仕組み
23.	〃	3 障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割
24.	〃	4 これからの障害者福祉施策の方向性
25.	介護実践にかかわる諸制度	1 人々の権利を擁護する諸制度
26.	〃	2 保健医療にかかわる諸施策
27.	〃	3 医療にかかわる法と諸施策
28.	〃	4 生活を支える諸制度のあらまし
29.	〃	5 高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度（その１）
30.	〃	6 高齢者・障害者の住生活を支援する諸制度（その２）
まとめ		
授業方法：講義及び学生の発表等		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]
①新・介護福祉士養成講座 2		①筆記試験とレポート（２回）により単位認定とする
「社会と制度の理解」中央法規出版（株）		②授業での発表態度や出席状況も考慮する
②参考文献随時紹介		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 法と人権		授業の種類 講 義	授業担当者 関谷 豊
授業回数 15回	時間数 30時間（2単位）	学年・時期 1年・前期	選択
[授業の目的] 社会生活において法の作用や役割・人権について理解させると同時に、憲法と関係する法の基礎を理解させて、介護福祉士としてまた社会人として必要な法律の基礎を学び、人権意識の重要性を学ばせる。 [授業全体の内容の概要] 介護福祉士として法律の基礎知識と人権の重要性を学びながら、立派な社会人として学生が成長できるように学ばせる。 [授業終了時の達成目標] 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。 2 憲法やその他福祉に関係する法の基礎を理解させる。 3 基本的人権や各種制度について介護福祉士に必要なように理解させるよう留意する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 法学概論と憲法の意義について 2. 社会の変遷と法（社会生活と法） 3. 裁判基準としての法 4. 法の効力と濫用について 5. 私権について 6. 国民の義務と基本的人権について 7. 憲法の基本原理について 8. 憲法について 9. 権利と義務・プライバシーについて 10. 個人を尊重する原理と新しい人権について 11. 人権の享有主体について 12. 幸福追求権について 13. 行政法と民法・介護福祉法について 14. 各種制度・関係法令・判例等について 15. まとめ・試験・レポート			
[使用テキスト・参考文献] 参考文献適宜紹介		[単位認定の方法及び基準] 試験とレポートにより単位認定する。	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 音楽療法		授業の種類 演習		授業担当者 熊野 恭子	
授業の回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 時間（1 単位）	配当学年・時期 2 年・ 前期		必修・選択 選択	
[授業の目的・ねらい] 音や音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを体験し、音や音楽によるノンバーバルコミュニケーションの可能性を理解させる					
[授業全体の内容の概要] ワークショップ中心の講義					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 音や音楽によるノンバーバルコミュニケーションからみえる自分自身の発見や他者理解を深める					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 音楽とは（テキストや臨床現場の実践報告で音楽教育との違いを知る） 2. 〃 （音や音楽を体験し、その意味を考える） 3. 音や音楽の可能性（音や音楽をさまざまな感覚で体験する） 4. 〃 （音や音楽にみえる『自分』を発見する） 5. 〃 （音や音楽にみえる呼吸・心身リズム・テンポ・人の発達を知る） 6. 〃 （音でつながるということ、楽器を通して体験する） 7. 音楽療法の具体的方法と展開（楽器によるノンバーバルコミュニケーションの方法を知る） 8. 〃 （ドラム同質奏法を体験しドラムの上でのコミュニケーションの方法を知る） 9. 〃 （リズム・ムーブメントやリラクゼーションを通して呼吸のバリエーションを知る） 10. 〃 （音や音楽を漢字、音絵を描く） 11. 音楽技術の習得（さまざまな声の出し方、楽器の操作・リズム打ち） 12. 〃 （音声アンサンブル・即興演奏・リズム打ち） 13. 実技試験（リズム打ち：Duet No.3 テキストP 3 6） 14. 作品発表練習（グループに分かれ、楽器、素材を検討する） 15. 筆記試験（4 5 分）・作品発表練習 16. 作品発表（発表後にそれぞれの感想・意見を交わす）					
[使用テキスト・参考文献] テキスト：中島恵子「はらっぱde楽譜集」 （こども音楽センター、1998） 参考文献：中島恵子、山下恵子「音と人をつなぐコ・ミュージックセラピー」（春秋社、2002） 貫行子「高齢者の音楽療法」（音楽之友社、1996）			[単位認定の方法及び基準] ・筆記試験 30％ ・実技試験 30％ ・作品発表 30％ ・授業態度 10％ 上記4項目を総合して評価する		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） レク・野外活動		授業の種類 演習・講義	授業担当者 信田 百合夫
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] スポーツ（野外活動）を通して、自然の生態系を理解し、環境教育の重要性を認識するとともに、野外活動に必要な知識技能を体得する。 [授業全体の内容の概要] 環境教育、自然のかかわり、テント設営、オリエンテーリングをはじめとする知識を身につける。自然体験活動実習を通して野外活動技術を学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 環境とそれにかかわる諸問題に気づき、関心を持つとともに、問題の解決や発生を防止するための知識、技能態度、意欲、実践力を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 環境教育について 2. 自然とのかかわり 3. ローインパクト、ミニマムインパクトを目指す野外活動 4. OL・地図とコンパスワーク 5. テント設営、火の扱い、CF 6. グループワークトレーニング（リーダー養成） 7. 野外実習事前研修 8. 野外活動 実習現場（秋吉台） 9. 〃 秋吉台の自然と生き立ち 10. 〃 テント設営、アイスブレイキング、オリエンテーリング、ハイキング 11. 〃 野外炊事、キャンプファイアー 12. 〃 大理石クラフト 13. 〃 グループワークトレーニング 14. 〃 ワークショップ 15. まとめと試験			
[使用テキスト・参考文献] ・国際環境教育会議・ベオグラード憲章 ・日本キャンプ協会 指導者養成「キャンプ専門科目テキスト」		[単位認定の方法及び基準] ・実習活動の態度、技能習得 ・レポート	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 情報処理		授業の種類 演習	授業担当者
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 現代社会においてパソコン機器使えることは社会人として必須である。福祉の現場において、全ての書類等の作成に関わってくる文書作成等に欠かせない知識を習得しパソコンが使えるようになる。 [授業全体の内容の概要] パソコンを使用し、実際の報告書等の作成やプレゼンテーションソフトを利用しての実践 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・文書作成ソフト（ワード）を利用して文書が作成できる。 ・表計算ソフト（エクセル）の操作ができる。 ・プレゼンテーションソフト（パワーポイント）の操作ができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. セキュリティと情報処理について 2. 文書作成ソフト（ワード）の知識と文書作成実習 4. 文書作成（公文書の作成方法） 5. ワード応用（さまざまなツールの利用） 6. ワードの応用（ポスター作製） 7. 表計算ソフトの基礎 8. 表計算ソフトの利用（簡単な関数） 9. 表計算ソフトの応用（グラフの作成） 10. 表計算ソフトの応用（総合練習） 11. プレゼンテーション（パワーポイント）の基礎 12. インターネットを利用し資料収集 13. プレゼンテーションの作成 14. プレゼンテーション作品発表（個人別に作成） 15. まとめ（試験と評価）			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・提出物	

授業概要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I		授業の種類 講義 演習	授業担当者 小池真理子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習。また 介護における安全やチームケア等について理解し習得する。 〔授業全体の内容の概要〕 介護を必要とする人の理解を深め人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や、障害がある人への理解を深め、介護を必要とする人の生活環境の考え方を学び、生活の観点から知識を深める 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 介護を必要とする人は、「なぜ、介護が必要なのか」をさまざまな角度から理解できる。 人間の多様性 複雑性を理解する。 高齢者の暮らしの実際を理解する。 障害のある人の暮らしを理解する。 生活環境を知る。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容授業方法〕 コマ数 1. オリエンテーション ～ 授業の展開説明 介護の基本の意味 2. 介護とは ① 成り立ち 3. 介護の定義 4. 生活支援とは ① 介護の専門性 6. 生活支援とは ② 自立と自律の支援 7. 生活支援とは ④ 介護サービスのあり方 8. 生活支援とは ⑤ 介護観 9. 生活支援とは ⑥ 本質的価値 10. 介護を必要とする人の理解 ① 生活とは何か 11. 介護を必要とする人の理解 ② 高齢者の暮らしを支える 12. 介護を必要とする人の理解 ③ 障害者の暮らしを支える 13. 介護を必要とする人の理解 ④ その人らしさとは 14. 介護を必要とする人の理解 ⑤ その人らしさを支える 15. 介護を必要とする人の理解 ⑥ 個別支援の視点 まとめ			
〔使用テキスト・参考文献〕 新介護福祉士養成講座第3巻 第2版『介護の基本I』（中央法規）		〔単位認定の方法及び基準〕 前期試験70% 出席10% 態度20%	

シラバス(授業概要)

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ		授業の種類 講義 演習	授業担当者 平岡慶介
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習。また 介護における安全やチームケアなどについて理解するための学習とする。 〔授業全体の内容の概要〕 介護の歴史や時代の変遷、介護福祉士という国家資格の法的根拠等を踏まえ、介護概論を中心に介護の基礎的知識・技術を習得する。 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 1 介護サービスを提供する場や対象によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を身につける。 2 自立支援の観点から、介護実践できる能力を養う。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容授業方法〕 コマ数 1 介護とは・介護福祉の対象 2 介護福祉の理念・定義 3 介護の歴史 4 介護問題の背景 5 社会福祉士及び介護福祉士法(介護福祉士の定義・義務など) 6 専門職能団体の活動 7 ケアプラン・ケアマネジメントの流れとしくみ 8 介護保険サービスの種類 9 サービス報酬・査定基準 10 介護サービス提供の場の特性(居宅・施設・その他) 11 介護従事者の倫理 12 介護実践の場で求められる倫理 13 利用者の人権と介護 14 プライバシーの保護			
〔使用テキスト・参考文献〕 介護福祉士養成テキスト		〔単位認定の方法及び基準〕 試験とレポートにより単位認定する。	

シラバス

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 III		授業の種類 講義 演習	授業担当者
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 『尊厳の保持』『自立支援』という新しい介護の考え方を理解するとともに『介護を必要とする人』を生活に観点から捉えるための学習。また介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。			
〔授業全体の内容の概要〕 誰もが人間としての尊厳が守られ、生活者として主体的に生きることを可能にするための人間尊重を基盤とした『介護観』を育む。人権保障としての介護について理解する。			
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 介護の基本理念としての『自立支援』の考え方と具体的な展開について『個別ケア』『自己決定』『生活の質』の向上と関連し理解する。介護場面における倫理課題について理解し、尊厳を支えるための専門職としての倫理観をもった行動がとれる。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容授業方法〕 コマ数 1. オリエンテーション ～この授業で学ぶこと 2. 生活障害とは ① 生活障害の視点 捉え方 3. 生活障害とは ② 生活障害とは ② 高齢者の暮らしの実際 余暇活動 4. 生活環境の重要性 地域の結びつき 家族の役割 5. 介護の働き ① 生活支援の意義 6. 介護の働き ② 介護を受けるということ 7. 介護の働き ③ 尊厳を支える介護とは何 8. 尊厳を支える介護 ① QOLの考え方 9. 尊厳を支える介護 ② ノーマライゼーションの実現 10. ICFの考え方 ① ICFの捉え方 11. ICFの考え方 ② ICFの活用 12. 介護とリハビリテーション ① リハビリテーションの考え方 13. 介護とリハビリテーション ② リハビリテーション実際 病院、施設、在宅 14. 介護とリハビリテーション ③ リハビリテーションとの連携 15. まとめ 介護福祉士と高齢者について 振り返り			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
新介護福祉士養成講座第3巻 『介護の基本I』（中央法規）		前期試験70% 出席10% 態度20%	

シラバス

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 IV		授業の種類 講義	授業担当者
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 対象者及び介護者の身体的・精神的・社会的な安全性とその意義、環境整備、各関係職種・機関の機能と役割・連携について理解するための学習とする。			
〔授業全体の内容の概要〕 介護における事故防止、完全管理、健康管理の必要性と実施するための具体的な方策等、また、それに係る環境整備関連職種・機関について習得する。			
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 1 多職種協働と各関連職種・機関の機能と役割・連携について理解する。 2 リスクマネジメントを通して対象者及び介護者の安全について理解する。 3 専門職として介護に従事するための環境づくりと健康管理について理解する。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容授業方法〕 コマ数 1 多職種連携の意義と目的 2 他の福祉職種の機能と役割・連携 3 保健医療職種の機能と役割・連携 4 その他の関連職種との連携 5 地域連携の意義と目的 6 地域住民・ボランティア等のインフォーマルサービスの機能と役割・連携 7 地域包括支援センターの機能と役割・連携 8 市町村・都道府県の機能と役割 9 介護における安全の確保 10 事故防止・安全対策 11 感染対策 12 介護従事者のこころの健康管理 13 介護従事者の身体の健康管理 14 労働安全 15 . まとめ・試験			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
介護福祉士養成テキスト 参考文献適宜紹介		試験とレポートにより単位認定する。	

授業概要

授業のタイトル（科目名） 家政学概論		授業の種類 講義	授業担当者
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護の基礎となる家庭生活と、そこに営まれる衣食住に関する基礎的な知識を習得し、施設のみならず在宅介護においても個人の人権を尊重した支援が提供できる知識の修得。 [授業全体の内容の概要] 家庭生活を中心に捉えて、経営・家庭経済・被服生活・食生活・住生活について学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 家庭生活の意義・食生活の意義・被服生活の意義・住生活の意義をそれぞれ理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 家庭生活の意義について 2 家庭生活と家庭経営 3 家庭生活と家庭管理 4 被服生活(被服素材の特徴) 5 高齢者の被服デザイン・色彩 6 障害者の被服デザイン・色彩 7 生活と食事 8 食事形態 9 身体機能と栄養 10 高齢者と栄養 11 障害者と栄養 12 住生活（室内環境整備） 13 住居管理 14 高齢者・障害者に適した住宅改善事例 15 まとめ・試験・レポート			
[使用テキスト・参考文献] 参考文献適宜紹介 介護福祉士養成テキスト		[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・試験	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） レクリエーション概論		授業の種類 （講義）・（演習）・実習）	授業担当者 信田百合夫
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 利用者個人の自立を目標としたレクリエーション活動の支援方法について学び、個人の意思と個別に即した多様なレクリエーションを生活の中で提供できる知識と技術を学ばせる。 [授業全体の内容の概要] 福祉現場に即したレクリエーション活動の作成能力と、実践援助能力を習得させる。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. レクリエーション活動の社会的意義を理解させる。 2. レクリエーション活動の援助者としての役割について理解させる。 3. レクリエーション活動の作成能力を習得向上させる。 4. レクリエーション活動の実践援助能力を習得向上させる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 レクリエーションの概念と人間社会 2 レクリエーション活動領域（地域社会、学校教育、職場、社会福祉分野等） 3 社会福祉とレクリエーションの意義 4 施設・在宅利用者と介護従事者のレクリエーション 5 個人・集団とレクリエーション 6 集団の効果と問題点への対応 7 集団力動性の活用と対応(効果と問題点への対応)演習 8 利用者とレクリエーション活動の動機づけ 9 レクリエーション活動援助の体系化と援助者の役割 10 レクリエーション活動計画の目標、作成、実施上の配慮 11 レクリエーション活動計画の作成、実施(演習) 12 レクリエーション活動援助者の役割分担とチームワーク 13 レクリエーション活動に伴う安全確保及び治療的意味合いを含めたレクリエーション活動の必要性 14 高齢者・障害形態別のレクリエーション活動と援助展開(演習含む) 15 復習とまとめ・テストと評価			
[使用テキスト・参考文献] 「レクリエーション支援の基礎」 （公益財団法人 日本レクリエーション協会）		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術各論Ⅰ		授業の種類 講義・演習	授業担当者
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習をする [授業全体の内容の概要] コミュニケーション技術の方法と内容について事例を取り入れながら講義する [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. コミュニケーション技術の方法と内容について理解させる 2. 傾聴技能を習得させる 3. 具体的な事例や援助場面を想定したロールプレイを通じ、実践に向けた応用力を養う 4. 自己の対人援助観を養う 5. 自己覚知の促進 6. 介護福祉士の専門性を理解させ、また自覚をまたせ、他の専門職種とのチームワークの大切さを理解させる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際 1. 感覚機能・運動機能が低下している人とのコミュニケーション 2. 感覚機能・運動機能が低下している人とのコミュニケーション 3. 認知・知覚機能が低下している人のコミュニケーション 4. 認知・知覚機能が低下している人のコミュニケーション 介護におけるチームのコミュニケーション 5. 介護における記録の意義、目的・記録の種類 6. 記録の方法、留意点 7. 記録の管理（介護記録における個人情報保護） 8. 介護記録の共有化 9. 情報通信技術（IT）を活用した記録の意義、活用の留意点 10. 記録の活用 11. 報告の意義、目的 12. 報告・連絡・相談の方法、留意事項 13. 会議の意義、目的、種類 14. 会議の方法、留意点 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 試験・レポート	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術各論Ⅱ		授業の種類 講義	授業担当者
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15時間（1単位）	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習をする [授業全体の内容の概要] 聴覚障害について学び、聴覚障害者とのコミュニケーション技術の方法と内容について [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 聴覚障害者のコミュニケーション技術の方法と内容について理解させる 2. 簡単な手話表現と読み取りができるようになる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 聴覚障害とは、聞こえの仕組みと手話の成り立ち 2. 指文字・数・名前の表現方法と読み取り 3. 人物・時・名前の表現方法と読み取り 4. 住所の表現方法と読み取り・聴覚障害者とのコミュニケーション 5. 仕事・趣味・問いかけや生活に関する表現と読み取り 6. 病気・介護・医療・感情・公共機関や身近なものの表現と読み取り 7. 副詞的・助動詞的表現と読み取り 8. まとめ・試験			
[使用テキスト・参考文献] 厚生省手話奉仕員養成講座入門、基礎課程対応		[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・試験（理論、実技）	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅰ		授業の種類 講義・ 演習	授業担当者 平岡慶介・小池真理子
授業の回数 30回	時間数(単位数) 120時間（4単位）	配当学年・時期 1学年・通年	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような情報であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、たり見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全かつ安楽な援助ができる知識や技術について修得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 講義で知識を修得した上で演習を行い、科学的根拠に基づいた生活支援技術を修得させる。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護の基本的技術を修得させ、その原理を理解させる。 2. 介護に適した住まい、住設備機器及び福祉用具について学ばせる。 3. 衣食住に関する様々な技能を実習を通して修得し、かつ高齢者や障害者の家庭生活支援能力を養う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション・ベッドカバーの畳み方 2. シーツ・毛布・枕カバーの畳み方と交換方法 3. ボディメカニクスとは 4. ボディメカニクスを用いた起き上がり 5. ベッド上での移動・水平移動 6. 「座る」ビデオ学習、仰臥位から端坐位 7. 「歩く」ビデオ学習、側面・前面からの立ち上がり 8. 車椅子への移乗 9. 車椅子での外出 10. 杖での歩行（T字、多点、ウォーカーケイン） 11. 階段の昇降 12. 浴衣の着脱 13. 前開き・丸首の着脱 仰臥位 14. 前開き・丸首の着脱 端坐位 15. 「排泄」ビデオ学習、障害者トイレ、Pトイレ 16. オムツ交換 17. 食事介助、口腔ケア 18. 視覚障害者の介助 19. アイマスクを装着して外出 20. 手浴・足浴			

21. 事例問題①の解説
22. 事例問題②の解説
23. 事例問題の発表
24. 事例問題の解説
25. 事例問題の解説
26. 事例ノートまとめ
27. 事例ノートまとめ
28. 事例ノートまとめ
29. 事例テスト
30. 事例問題のふり返し、解説

[使用テキスト・参考文献]
介護福祉士養成テキスト等

[単位認定の方法及び基準]
試験とレポートにより単位認定する

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 講義・演習	授業担当者 平岡・小池
授業の回数 30回	時間数(単位数) 120時間（4単位）	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような情報であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全かつ安楽な援助ができる知識や技術について修得する学習とする。 [授業全体の内容の概要] 講義で知識を修得した上で演習を行い、科学的根拠に基づいた生活支援技術を修得させる。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 1. 介護の基本的技術を修得させ、その原理を理解させる。 2. 介護に適した住まい、住設備機器及び福祉用具について学ばせる。 3. 衣食住に関する様々な技能を実習を通して修得し、かつ高齢者や障害者の家庭生活支援能力を養う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 床上リフト 2 全介助での体位変換 3 全介助での起き上がり 4 全介助での立ち上がり 5 全介助での車椅子移乗 6 ストレッチャーへの移乗 7 整容の介助 8 特浴、個浴 9 一人シーツ交換 10 二人シーツ交換 11 二人シーツ交換テスト 12 一人シーツ交換テスト 13 一人シーツ交換テスト 14 一人シーツ交換テスト 15 一人シーツ交換テスト 16 一人シーツ交換テスト 17 事例問題解説 18 事例問題の練習 19 事例問題の解説			

20 事例問題の練習 21 事例問題解説 22 事例問題の練習 23 事例問題の解説 24 事例問題の練習 25 事例問題の練習 26 事例問題の練習 27 事例問題の練習 28 事例テスト 29 事例問題のふり返し、解説 30 総復習	
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成テキスト等	[単位認定の方法及び基準] 試験とレポートにより単位認定する。

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 家政学Ⅰ（栄養・調理）		授業の種類 講義・演習		授業担当者	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 60時間	配当学年・時期 1年・前期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点からどのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めて、介護の基礎となる家庭生活に関する知識・技術を習得させ、個人に応じた介護支援ができる能力を養う					
[授業全体の内容の概要] 1. 自立に向けた食事の介護について 2. 自立に向けた家事の介護について 3. その他					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 家庭経営に関する様々な技能を実習を通して習得し、かつ高齢者や障害者の家庭生活支援能力を養う					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 家庭生活の経営と管理について 2. 家事（介護）作業計画書について 3. 家事に参加することを支える介護 4. 家事の介助の技法 5. 食事の意義と目的 6. 栄養について 7. 献立作成（高齢者） 8. 献立作成（各種疾病別） 9. 調理実習（高齢者） 10. 調理実習（高齢者） 11. 調理実習（障害者） 12. 調理実習（障害者） 13. 保存食品・加工食品について 14. 保存食・加工食品の作成 15. 食品衛生実験					
[使用テキスト・参考文献] 参考文献適時紹介 介護福祉養成テキスト			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・提出物・試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 家政学Ⅱ（被服・住居）		授業の種類 講義・演習	授業担当者
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 住居の役割や機能、住居の管理など住生活の基本的事項を理解し、高齢者や障害者に適応した住生活・住環境について学習する。介護の基礎となる家庭生活に関する知識・技術を習得させる [授業全体の内容の概要] 1. テキストや資料を使って住生活の基本事項を踏まえ、学生一人一人の自宅を例に高齢者や障害者に適した住環境に改善する。 2. 介護の立場から装いのリフォームやアドバイスができるよう、エプロン作製を通し基礎ぬいを学ぶ [授業終了時の達成課題（到達目標）] バリアフリーの住環境の必要性を認識し、高齢者・障害者における安心で安全な住環境について創意工夫し、計画提案する。 日常生活に必要な技能を実習を通して習得し、かつ高齢者や障害者の家庭生活支援能力を養う			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 住居の役割と機能 2. 地域生活と住居 3. 製図の基本、平面図・配置図 4. 生活行動と生活空間 5. 快適な室内環境 6. 高齢者・障害者の住居と住まい方 7. バリアフリー住居、バリアフリー住環境 8. 高齢者・障害者に適した住宅改善 9. 「家事」という生活の支援について 10. エプロン実習、からだの変化と装いを考える 11. 手縫い基礎① 運しん・玉止め・ボタンつけ 12. 糸の太さと色彩について 13. アイロンについて（ポケットつけ） 14. 手縫い基礎② まつりとミシンについて 15. エプロン実習、ミシンについて ・ まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座委員会「新・介護福祉士養成講座6、生活支援技術Ⅰ」		[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・提出物・試験 エプロン提出	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程の基礎 I		授業の種類 講義・演習	授業担当者 藤岡 恵子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 他科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開に必要な基礎知識および介護計画立案と適切なサービスの提供の重要性を理解し、介護過程の展開ができる能力を養う。 [授業全体の内容の概要] 生活支援を必要とする対象者の課題を理解し、目標設定のできる思考の展開を講義および演習を通し概説する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護過程とは何かを理解し、他の授業で学習した知識・技術を統合し、個々のニーズを的確に把握した介護過程の流れを理解し展開できる思考過程を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 「自分」を語ることで「人」を知る 2 暮らしを知る(過去・現在・未来) 3 生活史を調べる(高齢者の時代背景を通し望む生活を知る) 4 <u>介護過程の意義・目的</u> 5 <u>介護過程の展開①</u> (自立支援に対するアセスメント) 6 <u>介護過程の展開②</u> (日常生活動作の分析) 7 <u>介護過程の展開③</u> (生活上の課題(ニーズ)を捉える・生活支援の考え方①) 8 <u>介護過程の展開④</u> (生活上の課題(ニーズ)を捉える・生活支援の考え方②) 9 <u>介護過程の展開⑤</u> (生活上の課題(ニーズ)から目標の捉え方) 10 <u>介護過程の展開⑥</u> (生活上の課題(ニーズ)から目標設定) 11 介護過程とICF① 12 介護過程とICF② 13 アセスメントからの展開(事例演習を通して)① 14 アセスメントからの展開(事例演習を通して)② 15 まとめ・評価			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	
「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版		出席・授業態度 30% 課題レポート提出 20% 試験 50%	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程の基礎Ⅱ		授業の種類 講義・演習	授業担当者 藤岡 恵子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護過程は、介護による利用者の生活支援活動に不可欠なものであり、介護の専門的知識・技術からなる介護実践の全体像である。他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 [授業全体の内容と概要] 介護過程の基礎Ⅰにおける基礎知識の復習を行いながら、介護過程の意義の知識を深める。介護過程の展開を、演習を通し理解するとともに、自立支援のための介護過程の実践的展開へ発展し、介護過程とチームアプローチの重要性を理解する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 介護過程の展開は、介護福祉士として専門性のある介護を提供するために重要であると自覚できる。 自立支援における介護過程は、利用者への説明や同意が、職業倫理上大切であることを理解し行え、他職種連携が不可欠であると理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護過程の基礎Ⅰにおける基礎知識の復習 2 アセスメント：利用者本位の事実 3 アセスメント：ICFにおける障害の概念 4 アセスメント：生活機能の理解 5 アセスメント：自立支援に基づくアセスメント 6 アセスメント：自己実現のニーズ 7 <u>介護過程の実践的展開①</u>：介護実習で受け持った利用者についてどのような情報が収集されたか報告し共有する 8 <u>介護過程の実践的展開②</u>：介護実習で収集した情報に基づき生活課題を明確にし、根拠を導き出す 9 <u>介護過程の実践的展開③</u>：生活課題の根拠を元に具体的な支援策を計画する。 10 介護計画を実施するために必要なこと、介護者側、利用者両方からの考察 11 <u>介護過程とチームアプローチ</u>及び記録の意義 12 評価の視点 13 評価に基いての介護計画の修正、新たな介護計画の作成 14 終末期の介護過程① 15 終末期の介護過程②			
[使用テキスト・参考文献] ・ 久保田トミ子他「介護過程 第2版（新・介護福祉士養成講座）」 中央法規出版 2011 ・ 授業内容に沿ったレジュメを必要に応じて配付		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席・発表への貢献度 20% 課題・レポート提出 20% 試験 60%	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ケアマネジメント論		授業の種類 講義・演習	授業担当者 平岡慶介
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスができる能力を養う。 [授業全体の内容と概要] 利用者の理解を図りながら、必要な情報収集を行い、分析・解釈に基づいて介護内容方法を計画し、実施・評価できるように講義・演習を通して学習する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 事例演習をふまえて個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護過程におけるアセスメントの概要 2 情報収集 3 情報の分析・統合によるニーズの明確化と課題の抽出 4 課題の優先順位 5 介護計画の意義 6 目標の設定 7 援助方法の立案 8 介護計画に記入すべき要素 9 介護警計画の書き方 10 介護過程における実施の意義と記録の方法 11 評価の意義と介護過程における位置づけ 12 評価作業の手順と評価記録の方法 13 介護過程に必要な記録類 14 評価後の介護計画の修正 15 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成テキスト		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 試験とレポートにより単位認定する。	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程事例演習		授業の種類 講義・演習	授業担当者 藤岡 恵子
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護実習および事例を通し、実践課程を構成する要素(人的・環境的ツール)の理解を深め、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。			
[授業全体の内容の概要] 利用者の自立した生活の質(QOL)の向上に向けてのニーズの把握をし、個々の利用者に対して個別の考察した計画の立案、実施、評価の流れを事例演習を通し学ぶ。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護過程に必要な知識と技術を身に着け、専門職として他職種との連携を行い、利用者本位の支援のありかたを理解できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護過程の実践的展開①-1 (事例①を通しての利用者の現状の把握) 2 介護過程の実践的展開①-2 (事例①を通しての解決すべき課題の抽出①) 3 介護過程の実践的展開①-3 (事例①を通しての解決すべき課題の抽出②) 4 ニーズ抽出の根拠① 5 ニーズ抽出の根拠② 6 目標設定・具体的な支援内容① 7 目標設定・具体的な支援内容② 8 模擬カンファレンス 9 介護過程の実践的展開②-1 (事例②を通しての利用者の現状の把握) 10 介護過程の実践的展開②-2 (事例②を通しての解決すべき課題の抽出①) 11 介護過程の実践的展開②-3 (事例②を通しての解決すべき課題の抽出②) 12 ニーズ抽出の根拠① 13 ニーズ抽出の根拠② 14 目標設定・具体的な支援内容① 15 模擬カンファレンス			
[使用テキスト・参考文献] 「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席・授業態度 30% 課題レポート提出 20% 試験 50%	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程事例演習		授業の種類 講義・ 演習		授業担当者 藤岡 恵子																																																												
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間(2単位)	配当学年・時期 2年・通年		必修・選択 必修																																																												
[授業の目的・ねらい] 介護実習および事例を通し、実践課程を構成する要素(人的・環境的ツール)の理解を深め、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。 [授業全体の内容の概要] 利用者の自立した生活の質(QOL)の向上に向けてのニーズの把握をし、個々の利用者に対して個別の考察した計画の立案、実施、評価の流れを事例演習を通し学ぶ。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護過程に必要な知識と技術を身に着け、専門職として他職種との連携を行い、利用者本位の支援のありかたを理解できるようになる。																																																																
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <table><tr><td>1 <u>介護過程の実践的展開①-1</u></td><td>(事例①を通しての利用者の現状の把握)</td></tr><tr><td>2 <u>介護過程の実践的展開①-2</u></td><td>(事例①を通しての解決すべき課題の抽出①)</td></tr><tr><td>3 <u>介護過程の実践的展開①-3</u></td><td>(事例①を通しての解決すべき課題の抽出②)</td></tr><tr><td>4 ニーズ抽出の根拠①</td><td></td></tr><tr><td>5 ニーズ抽出の根拠②</td><td></td></tr><tr><td>6 目標設定・具体的な支援内容①</td><td></td></tr><tr><td>7 目標設定・具体的な支援内容②</td><td></td></tr><tr><td>8 模擬カンファレンス</td><td></td></tr><tr><td>9 <u>介護過程の実践的展開②-1</u></td><td>(事例②を通しての利用者の現状の把握)</td></tr><tr><td>10 <u>介護過程の実践的展開②-2</u></td><td>(事例②を通しての解決すべき課題の抽出①)</td></tr><tr><td>11 <u>介護過程の実践的展開②-3</u></td><td>(事例②を通しての解決すべき課題の抽出②)</td></tr><tr><td>12 ニーズ抽出の根拠①</td><td></td></tr><tr><td>13 ニーズ抽出の根拠②</td><td></td></tr><tr><td>14 目標設定・具体的な支援内容①</td><td></td></tr><tr><td>15 介護過程の実践的展開③</td><td>(事例③を通してニーズの抽出～立案)</td></tr><tr><td>16 <u>介護過程の実践的展開③-1</u></td><td>(事例③を通しての利用者の現状の把握)</td></tr><tr><td>17 <u>介護過程の実践的展開③-2</u></td><td>(事例③を通しての解決すべき課題の抽出①)</td></tr><tr><td>18 ニーズ抽出の根拠①</td><td></td></tr><tr><td>19 ニーズ抽出の根拠②</td><td></td></tr><tr><td>20 目標設定・具体的な支援内容①</td><td></td></tr><tr><td>21 目標設定・具体的な支援内容②</td><td></td></tr><tr><td>22 模擬カンファレンス</td><td></td></tr><tr><td>23 <u>介護過程の実践的展開④-1</u></td><td>事例④(ICFの現状の把握)</td></tr><tr><td>24 <u>介護過程の実践的展開④-2</u></td><td>ICFによる事例④(利用者の現状の把握)</td></tr><tr><td>25 <u>介護過程の実践的展開④-3</u></td><td>ICFによる事例④(解決すべき課題の抽出①)</td></tr><tr><td>26 <u>介護過程の実践的展開④-4</u></td><td>ICFによる事例④(解決すべき課題の抽出①)</td></tr><tr><td>27 <u>介護過程の実践的展開④-5</u></td><td>ICFによる事例④(ニーズに対する目標設定および支援内容)</td></tr><tr><td>28 <u>介護過程とチームアプローチ①</u></td><td>事例④(介護サービス計画に関わる他職種協働)</td></tr><tr><td>29 <u>介護過程とチームアプローチ②</u></td><td>事例④(ケアカンファレンスの意義・目的)</td></tr><tr><td>30 まとめ・評価</td><td></td></tr></table>					1 <u>介護過程の実践的展開①-1</u>	(事例①を通しての利用者の現状の把握)	2 <u>介護過程の実践的展開①-2</u>	(事例①を通しての解決すべき課題の抽出①)	3 <u>介護過程の実践的展開①-3</u>	(事例①を通しての解決すべき課題の抽出②)	4 ニーズ抽出の根拠①		5 ニーズ抽出の根拠②		6 目標設定・具体的な支援内容①		7 目標設定・具体的な支援内容②		8 模擬カンファレンス		9 <u>介護過程の実践的展開②-1</u>	(事例②を通しての利用者の現状の把握)	10 <u>介護過程の実践的展開②-2</u>	(事例②を通しての解決すべき課題の抽出①)	11 <u>介護過程の実践的展開②-3</u>	(事例②を通しての解決すべき課題の抽出②)	12 ニーズ抽出の根拠①		13 ニーズ抽出の根拠②		14 目標設定・具体的な支援内容①		15 介護過程の実践的展開③	(事例③を通してニーズの抽出～立案)	16 <u>介護過程の実践的展開③-1</u>	(事例③を通しての利用者の現状の把握)	17 <u>介護過程の実践的展開③-2</u>	(事例③を通しての解決すべき課題の抽出①)	18 ニーズ抽出の根拠①		19 ニーズ抽出の根拠②		20 目標設定・具体的な支援内容①		21 目標設定・具体的な支援内容②		22 模擬カンファレンス		23 <u>介護過程の実践的展開④-1</u>	事例④(ICFの現状の把握)	24 <u>介護過程の実践的展開④-2</u>	ICFによる事例④(利用者の現状の把握)	25 <u>介護過程の実践的展開④-3</u>	ICFによる事例④(解決すべき課題の抽出①)	26 <u>介護過程の実践的展開④-4</u>	ICFによる事例④(解決すべき課題の抽出①)	27 <u>介護過程の実践的展開④-5</u>	ICFによる事例④(ニーズに対する目標設定および支援内容)	28 <u>介護過程とチームアプローチ①</u>	事例④(介護サービス計画に関わる他職種協働)	29 <u>介護過程とチームアプローチ②</u>	事例④(ケアカンファレンスの意義・目的)	30 まとめ・評価	
1 <u>介護過程の実践的展開①-1</u>	(事例①を通しての利用者の現状の把握)																																																															
2 <u>介護過程の実践的展開①-2</u>	(事例①を通しての解決すべき課題の抽出①)																																																															
3 <u>介護過程の実践的展開①-3</u>	(事例①を通しての解決すべき課題の抽出②)																																																															
4 ニーズ抽出の根拠①																																																																
5 ニーズ抽出の根拠②																																																																
6 目標設定・具体的な支援内容①																																																																
7 目標設定・具体的な支援内容②																																																																
8 模擬カンファレンス																																																																
9 <u>介護過程の実践的展開②-1</u>	(事例②を通しての利用者の現状の把握)																																																															
10 <u>介護過程の実践的展開②-2</u>	(事例②を通しての解決すべき課題の抽出①)																																																															
11 <u>介護過程の実践的展開②-3</u>	(事例②を通しての解決すべき課題の抽出②)																																																															
12 ニーズ抽出の根拠①																																																																
13 ニーズ抽出の根拠②																																																																
14 目標設定・具体的な支援内容①																																																																
15 介護過程の実践的展開③	(事例③を通してニーズの抽出～立案)																																																															
16 <u>介護過程の実践的展開③-1</u>	(事例③を通しての利用者の現状の把握)																																																															
17 <u>介護過程の実践的展開③-2</u>	(事例③を通しての解決すべき課題の抽出①)																																																															
18 ニーズ抽出の根拠①																																																																
19 ニーズ抽出の根拠②																																																																
20 目標設定・具体的な支援内容①																																																																
21 目標設定・具体的な支援内容②																																																																
22 模擬カンファレンス																																																																
23 <u>介護過程の実践的展開④-1</u>	事例④(ICFの現状の把握)																																																															
24 <u>介護過程の実践的展開④-2</u>	ICFによる事例④(利用者の現状の把握)																																																															
25 <u>介護過程の実践的展開④-3</u>	ICFによる事例④(解決すべき課題の抽出①)																																																															
26 <u>介護過程の実践的展開④-4</u>	ICFによる事例④(解決すべき課題の抽出①)																																																															
27 <u>介護過程の実践的展開④-5</u>	ICFによる事例④(ニーズに対する目標設定および支援内容)																																																															
28 <u>介護過程とチームアプローチ①</u>	事例④(介護サービス計画に関わる他職種協働)																																																															
29 <u>介護過程とチームアプローチ②</u>	事例④(ケアカンファレンスの意義・目的)																																																															
30 まとめ・評価																																																																
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)																																																														
「新・介護福祉士養成講座 9 介護過程」第2版 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版		出席・授業態度 30% 課題レポート提出 20% 試験 50%																																																														

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習 介護総合演習Ⅰ		授業の種類 演習	授業担当者 小池真理子
授業の回数 15回	時間数 30時間	時期 1年前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 利用者とコミュニケーションを図りながら利用者の生活状況や生活リズム及びニーズの把握に努め、実習施設の概要・基礎的な日常生活援助を体験し、理解する。 [授業全体の内容の概要] 介護実習に向けて心構え、予備知識、動機づけ、また体験実習を行うことで、利用者や施設の概要を掴むことができるようにし、実習後は振り返りを行うことにより更に効果的な介護実習を行えるようにする。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・各実習の意義と重要性について理解できる。 ・学内で学んだ知識・技術・態度を実習の中で実践的に活用できる。 ・実習を通して施設の概要と利用者について理解が深められる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護実習の意義と目的 2 実習施設の理解(施設の特徴) 3 利用者の特徴の理解 4 施設職員の役割・他職種間の連携 5 実習概要の説明(施設実習の目的・目標) 6 体験実習報告とグループディスカッション 7 体験実習の振り返り・反省会 8 体験実習報告とグループディスカッション 9 体験実習の振り返り・反省会 10 実習前オリエンテーションについて(マナー・心構え・注意事項) 11 個人プロフィールの作成・個人面談 12 実習記録の書き方(記録法) 13 実習での問題点についてディスカッション(帰校日) 14 自己評価・個人の振り返り(反省用紙記入) 15 実習報告・まとめ			

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 小池真理子	
授業の回数 15回	時間数 30時間	時期 1年後期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護実習の振り返りを行い、反省点や改善点を明確し、次の実習に活かせるように努める。 また、様々な利用者像を理解し、個別のコミュニケーション技法を身につけ、アセスメントに必要な 情報収集が円滑にできるようになる。					
[授業全体の内容の概要] 利用者の特性に応じたコミュニケーションが図れるように事例を取り上げ、その方法について 理解を深める。また、介護過程における情報の収集・分析・統合から導き出されたニーズを どのように捉えるかを演習を通して学習する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・実習を振り返り、課題を見つけられる。 ・利用者を多面的に捉える視点と、利用者に応じたコミュニケーション能力を養うことができる。 ・介護過程の展開と記録の方法を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 実習の振り返り					
2 実習施設の理解(施設の特徴・役割)					
3 利用者の特徴の理解(病気や症状の特徴と理解)					
4 認知症の理解					
5 認知症のある人の支援体制					
6 コミュニケーション技法(事例を基に演習)					
7 実習記録について(記録法)					
8 実習前の介護技術の確認					
9 情報収集の方法					
10 アセスメントの方法					
11 介護計画の立て方					
12 介護計画の立案(演習)					
13 介護計画の実際					
14 実習記録について(記録法)					
15 まとめ					

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習 介護総合演習Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 平岡慶介	
授業の回数 15回		時間数 30時間		時期 2年前期	
				必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 利用者との円滑なコミュニケーションを通じて信頼関係を構築し、必要な情報収集を行い、個別のニーズを把握し、その方に合った介護計画の立案ができるようになる。					
[授業全体の内容の概要] 個別のニーズを把握するための着眼点や観察方法について、演習を通して学習する。 また、十分な振り返りを行うことで、より効果的な介護実習を行えるようにする。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・各実習の意義の重要性について理解できる。 ・実習を通して学内で学んだ知識・技術・態度を具体的かつ実践的に理解できる。 ・習得した諸学習を応用し、実践的な技術を体得できる。 ・介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応能力を習得できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 実習の目的・目標と実習内容の説明					
2 実習課題の設定					
3 実習オリエンテーションについて					
4 個人プロフィール作成					
5 個人面談					
6 レクリエーション企画書の作成					
7 アセスメントの方法と介護計画の立て方					
8 実習前の介護技術の確認					
9 実習での問題点についてディスカッション(帰校日)					
10 自己評価・個人の振り返り(反省用紙記入)					
11 実習報告とグループディスカッションと反省会					
12 訪問介護の役割					
13 施設と在宅の違い					
14 記録の書き方(記録法)					
15 まとめ					

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護総合演習 介護総合演習Ⅳ		授業の種類 演習		授業担当者 平岡慶介																															
授業の回数 15回		時間数 30時間		時期 2年後期																															
必修・選択 必修																																			
[授業の目的・ねらい] 介護実習の介護技術の確認、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力、実習後の事例研究等について個別の学習到達状況に応じた総合的かつ実践的な学習をする。 [授業全体の内容の概要] 個別の必要な情報の収集・分析・統合から生活課題を抽出し、立案、実施、評価、修正に至る一連の介護過程を実習の中で総合的に実践できるように演習を通して学習する。 また、その過程を研究し記録としてまとめ、発表する機会を設ける。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・各実習の意義の重要性について理解できる。 ・実習を通して学内で学んだ知識・技術・態度を具体的かつ実践的に理解できる。 ・習得した諸学習を応用し、実践的な技術を体得できる。 ・介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合的対応能力を習得できる。 ・導入から結論まで根拠に基づいた事例研究を行い、発表することができる。																																			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <table><tr><td>1</td><td>実習の振り返り</td></tr><tr><td>2</td><td>実習記録について(記録法)</td></tr><tr><td>3</td><td>実習の目的・目標と実習内容の説明</td></tr><tr><td>4</td><td>実習課題の設定</td></tr><tr><td>5</td><td>実習前オリエンテーションについて</td></tr><tr><td>6</td><td>個人プロフィール作成・個人面談</td></tr><tr><td>7</td><td>介護技術の確認</td></tr><tr><td>8</td><td>実習での問題点についてのディスカッション</td></tr><tr><td>9</td><td>自己評価・個人の振り返り(反省用紙記入)</td></tr><tr><td>10</td><td>受け持ち事例のまとめ</td></tr><tr><td>11</td><td>研究論文作成</td></tr><tr><td>12</td><td>研究論文作成</td></tr><tr><td>13</td><td>事前練習</td></tr><tr><td>14</td><td>研究発表会</td></tr><tr><td>15</td><td>まとめ</td></tr></table>						1	実習の振り返り	2	実習記録について(記録法)	3	実習の目的・目標と実習内容の説明	4	実習課題の設定	5	実習前オリエンテーションについて	6	個人プロフィール作成・個人面談	7	介護技術の確認	8	実習での問題点についてのディスカッション	9	自己評価・個人の振り返り(反省用紙記入)	10	受け持ち事例のまとめ	11	研究論文作成	12	研究論文作成	13	事前練習	14	研究発表会	15	まとめ
1	実習の振り返り																																		
2	実習記録について(記録法)																																		
3	実習の目的・目標と実習内容の説明																																		
4	実習課題の設定																																		
5	実習前オリエンテーションについて																																		
6	個人プロフィール作成・個人面談																																		
7	介護技術の確認																																		
8	実習での問題点についてのディスカッション																																		
9	自己評価・個人の振り返り(反省用紙記入)																																		
10	受け持ち事例のまとめ																																		
11	研究論文作成																																		
12	研究論文作成																																		
13	事前練習																																		
14	研究発表会																																		
15	まとめ																																		

授業概要

授業タイトル	担当者										必須・選択	
介護実習	松 寿 ・ 小 池 ・ 藤 岡 ・ 平 岡										必須	
目的・ねらい												
実習（Ⅰ）	様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。											
実習（Ⅱ）	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者毎の介護計画の作成、実施後の評価などの介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して具体的な介護サービス提供の基礎となる実践力を習得する。											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一年次				実習（Ⅰ）				実習（Ⅱ）				
二年次			実習（Ⅱ）				実習（Ⅱ）		実習（Ⅰ）			

授業概要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅰ		授業の種類 講義 ・ 演習		授業担当者 藤岡 恵子																																	
授業の回数 15 回		時間数（単位数） 3 0 時間（2 単位）		配当学年・時期 1 年・後期		必須・選択 必須																															
[授業の目的・ねらい] ・ 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。 ・ 老化に伴うこころの変化と日常生活への影響を理解する [授業全体の内容の概要] ・ エリクソンらの発達観を土台に、人間の発達過程と課題について学習し、老年期における発達と成熟について学習する。 ・ 高齢者の心理を、老化による心身の影響、社会の影響、環境の影響から理解する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] 1 人間の発達と老化を理解し、高齢者の気持ちを踏まえた介護実践ができるようになる。 2. 老化と発達の概念を理解し、個々の自己実現をはかる活動に対しての介護実践ができる。																																					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <table><tr><td>1. <u>人間の成長と発達の基礎的理解①</u></td><td>（発達とは）</td></tr><tr><td>2. 人間の成長と発達の基礎的理解②</td><td>（発達段階と発達課題）</td></tr><tr><td>3. 人間の成長と発達の基礎的理解③</td><td>（発達と個人差）</td></tr><tr><td>4. <u>老年期の発達と成熟①</u></td><td>（老化の定義）</td></tr><tr><td>5. <u>老年期の発達と成熟②</u></td><td>（老年期の発達課題）</td></tr><tr><td>6. 老化に伴うこころの変化と日常生活①</td><td>（老化が及ぼす心理的影響）</td></tr><tr><td>7. 老化に伴うこころの変化と日常生活②</td><td>（老いの価値観・受容）</td></tr><tr><td>8. 老化に伴うこころの変化と日常生活③</td><td>（老高齢者のこころの問題と精神障害）</td></tr><tr><td>9. 高齢者の心理①</td><td>（要介護による高齢者の心理①）</td></tr><tr><td>10. 高齢者の心理②</td><td>（要介護による高齢者の心理②）</td></tr><tr><td>11. 高齢者の心理③</td><td>（社会や家庭での役割の喪失）</td></tr><tr><td>12. 高齢者の心理④</td><td>（経済的不安）</td></tr><tr><td>13. 具体的事例の検討</td><td></td></tr><tr><td>14. 具体的事例の検討</td><td></td></tr><tr><td>15. まとめ</td><td></td></tr></table>								1. <u>人間の成長と発達の基礎的理解①</u>	（発達とは）	2. 人間の成長と発達の基礎的理解②	（発達段階と発達課題）	3. 人間の成長と発達の基礎的理解③	（発達と個人差）	4. <u>老年期の発達と成熟①</u>	（老化の定義）	5. <u>老年期の発達と成熟②</u>	（老年期の発達課題）	6. 老化に伴うこころの変化と日常生活①	（老化が及ぼす心理的影響）	7. 老化に伴うこころの変化と日常生活②	（老いの価値観・受容）	8. 老化に伴うこころの変化と日常生活③	（老高齢者のこころの問題と精神障害）	9. 高齢者の心理①	（要介護による高齢者の心理①）	10. 高齢者の心理②	（要介護による高齢者の心理②）	11. 高齢者の心理③	（社会や家庭での役割の喪失）	12. 高齢者の心理④	（経済的不安）	13. 具体的事例の検討		14. 具体的事例の検討		15. まとめ	
1. <u>人間の成長と発達の基礎的理解①</u>	（発達とは）																																				
2. 人間の成長と発達の基礎的理解②	（発達段階と発達課題）																																				
3. 人間の成長と発達の基礎的理解③	（発達と個人差）																																				
4. <u>老年期の発達と成熟①</u>	（老化の定義）																																				
5. <u>老年期の発達と成熟②</u>	（老年期の発達課題）																																				
6. 老化に伴うこころの変化と日常生活①	（老化が及ぼす心理的影響）																																				
7. 老化に伴うこころの変化と日常生活②	（老いの価値観・受容）																																				
8. 老化に伴うこころの変化と日常生活③	（老高齢者のこころの問題と精神障害）																																				
9. 高齢者の心理①	（要介護による高齢者の心理①）																																				
10. 高齢者の心理②	（要介護による高齢者の心理②）																																				
11. 高齢者の心理③	（社会や家庭での役割の喪失）																																				
12. 高齢者の心理④	（経済的不安）																																				
13. 具体的事例の検討																																					
14. 具体的事例の検討																																					
15. まとめ																																					
[使用テキスト・参考文献] 「新・介護福祉士養成講座 11 発達と老化の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版				[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 出席・授業態度（30%） 定期試験（70%）																																	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 講義	授業担当者 松寄芳江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 発達の観点から老人を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する [授業全体の内容の概要] 老化に伴う機能低下が日常生活の及ぼす影響や高齢者に多い疾病について理解し、生活支援技術の根拠となるようにする。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・老化に伴う機能低下と高齢者に多い疾病の特徴を理解できる。 ・高齢者を理解することで、生活支援技術に生かすことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 加齢・老化について 2. 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響① 3. 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響② 4. 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響③ 5. 老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響 6. 高齢者の健康と疾患の特徴 7. 復習、中間評価 8. 高齢者に多い症状その留意点① 9. 高齢者に多い症状その留意点② 10. 高齢者に多い症状その留意点③ 11. 高齢者に多い疾病と生活上の留意点① 12. 高齢者に多い疾病と生活上の留意点② 13. 高齢者に多い疾病と生活上の留意点③ 14. 演習：高齢者の訴えに対しての対応 15. まとめ、評価			
[使用テキスト・参考文献] 蘭香代子他「発達と老化の理解」中央法規出版、2001		[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・提出物・筆記試験	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅰ		授業の種類 講義	授業担当者 松寄芳江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30（2単位）	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する。 [授業全体の内容の概要] 認知症の原因疾患、中核症状・BPSDを理解し、認知症を正しく理解していく [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・認知症への理解を深め、そこから生じる日常生活への影響が理解できる ・認知症のある人のケアを学び、実習に活かすことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. DVD鑑賞 認知症のイメージ 2. 認知症の人の体験理解 3. 認知症ケアの歴史、認知症ケアの理念と視点 4. 認知症の脳の変化、認知症とは何か 5. 体験を通して認知症の診断を理解する 6. アルツハイマー型認知症について 7. 脳血管性認知症について、アルツハイマー型認知症との違い 8. その他の認知症の原因疾患について 9. 認知症の人の心理的理解 グループワーク 10. グループワーク後の発表、評価 11. 中核症状、BPSDについて 12. 認知症の中核症状の理解 13. 認知症のBPSDのなかの心理症状の理解 14. 認知症のBPSDのなかの行動症状の理解 15. まとめ、評価			
[使用テキスト・参考文献] 岩尾貢他「認知症の理解」中央法規出版、2001		[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・提出物・筆記試験	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 講義・演習	授業担当者 藤岡 恵子
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 2年 通年	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 認知症に対する基礎知識を習得し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 〔授業全体の内容の概要〕 認知症の介護には、その言動の背景を理解しなければならない。根拠に基づいた対応を学び、認知症ケアは認知症の人だけでなく、その家族への支援が不可欠であることを学習する。また、グループワークによる学生討論を実施する。 〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕 1.認知症の人の特徴的な心理と行動から、アセスメントへと導くことが理解できる。 2.家族への支援や地域のサポート体制を理解できる。 3.B P S Dに対する適切な介護を考えることができる。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1 <u>認知症を取り巻く現状①</u>（認知症ケアの歴史・理念） 2 <u>認知症を取り巻く現状②</u>（認知症高齢者の現状と今後） 3 <u>認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活①</u>（認知症の人の特徴的な心理・行動） 4 <u>認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活②</u>（認知症による日常生活の影響） 5 <u>認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活③</u>（環境変化の影響） 6 <u>認知症の人に対するアセスメント①</u>（保たれている能力と低下している能力） 7 <u>認知症の人に対するアセスメント②</u>（家族との関係の把握） 8 <u>家族への支援①</u>（認知症の人を抱える家族の受容の過程） 9 <u>家族への支援②</u>（認知症の家族の心理の理解と援助） 10 <u>家族への支援③</u>（家族の介護力の評価とレスパイト） 11 <u>家族への支援④</u>（家族へのエンパワメント） 12 若年性認知症の理解 13 <u>連携と協働①</u>（地域包括支援センターの役割や機能・コミュニティづくり、町づくり） 14 <u>連携と協働②</u>（チームアプローチによる継続的ケア及認知症者対応施設の役割と機能） 15 まとめ			
〔使用テキスト・参考文献〕 「新・介護福祉士養成講座 12 認知症の理解」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版		〔単位認定の方法及び基準〕 （試験やレポートの評価基準など） 出席・授業態度（30%） 試験（70%）	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅰ		授業の種類 講義		授業担当者	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・後期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 障害の概念や障害者福祉の基本理念を学ぶ。障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響を「生活支援技術」と関連付けて学ぶことができる					
[授業全体の内容の概要] 疑似体験などにより具体的なイメージを持って障害を理解できるような授業を展開する					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 基本理念としてノーマライゼーションについて理解でき、障害の知識や症状、自立に向けて必要な介護を考えることができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 障害のある人の心理 2. 障害者の法的定義 3. ノーマライゼーション 4. リハビリテーション（インクルージョン） 5. 自己決定の概念 6. ケアワークの中のエンパワーメント 7. 生活ニーズとアセスメント 8. 自己の概念 9. 家族への支援 10. 地域生活と支援 11. チームアプローチ 12. 地域におけるサポート 13. 行政、社協との連携 14. 社会資源のあり方 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座「障害の理解」 中央法規、2013			[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・提出物・筆記試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 小原良江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 2学年		必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 身体面に障害のある人について、医学的理解・心理的理解・生活の理解・介護上の留意点を学ぶ				
[授業全体の内容の概要] 障害（疾患）の知識及び症状とその背景や原因を知り、自立に向けてどのような介護が望まれるかについて学生が考えられるよう授業を行っていく				
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 身体障害のある人について日常生活の及ぼす影響を考慮し、残存能力、潜在能力の活用を含めて「生活支援技術」と関連させ理解することができる				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 視覚障害のある人の生活 2. 聴覚・言語障害のある人の生活 3. 重複障害のある人の生活 4. 肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活 5. 内部障害のある人の生活 6. 内部障害のある人の生活 7. 知的障害のある人の生活 8. 精神障害のある人の生活 9. 高次脳機能障害のある人の生活 10. 高次脳機能障害のある人の生活 11. 発達障害のある人の生活 12. 重症心身障害のある人の生活 13. 難病のある人の生活 14. テスト 15. 振り返り				
[使用テキスト・参考文献] 「障害の理解」「こころとからだのしくみ」 中央法規出版、2012 看護のための最新医学講座（老人の医学）		[単位認定の方法及び基準] 試験・体験学習		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） 精神保健		授業の種類 講義・演習		授業担当者	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・後期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 精神保健の概要、精神障害の基礎知識を理解し、介護福祉の実践に役立たせる					
[授業全体の内容の概要] 精神保健の概要、精神障害の基礎知識等について介護福祉に関連しながら講義する					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・精神保健の意義について理解できる ・生活の場における精神保健の役割について理解できる ・精神障害の基礎知識について理解できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 精神保健の意義、精神保健の動向、現代社会における精神保健の重要性 2. 精神保健の歴史 3. 児童における精神保健 4. 思春期における精神保健 5. 成人期における精神保健 6. 老年期における精神保健 7. 地域における精神保健 8. 精神障害の基礎知識（心身症、神経症） 9. " （躁・うつ病、統合失調症、その他） 10. " （認知症の定義、原因、症状、対応の原則） 11. " （ " ） 12. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の概要 13. 精神保健福祉の理念 14. 精神保健福祉関係機関、精神保健福祉士の役割と介護の連携 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・レポート・筆記試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅠ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 松田典子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30（2単位）	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる心理的側面への配慮について理解する [授業全体の内容の概要] 人間の欲求の基本的な理解や感情の思考等を学び、学生が利用者の状態をみて理解したうえで、生活支援が行えるように留意し授業を展開する [授業修了時の達成課題（到達目標）] こころとからだは相互に影響し合い、意欲や行動などに影響を及ぼすことを学習する			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 人間の欲求の基本的理解 2. 基本的欲求と社会的欲求 3. 自己概念について 4. 〃 5. こころのしくみの基礎 6. 思考のしくみ 7. 学習について 8. 記憶について 9. 感情のしくみ 10. 意欲・動機づけのしくみ 11. 適応のしくみ 12. 防衛機制について 13. 発達障害の理解 14. 睡眠のしくみ 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・提出物・筆記試験	

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 講義・演習		授業担当者	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年・前期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 高齢者や障害者の健康レベルを維持向上させ、自立した日常生活の援助に向けて医学一般の知識が習得できる					
[授業全体の内容の概要] 高齢者に多い疾病とその症状の現れ方の特徴を学び実際に生活する場面の中で理解でき、環境等により個人差があることを学生が実感できるように留意し、授業を展開していく					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・人体の基本的な構造や機能及びその病的状態について理解できる ・代表的な疾患について、その概要が理解できる ・保健医療に関する基礎知識が理解できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. からだのしくみの理解、生命の維持・向上のしくみについて 2. 人体の区分、解剖学用語、細胞と組織 3. 循環器系、呼吸器系について 4. 消化器系、代謝系、泌尿器系について 5. 神経系、皮膚系、筋・骨格系について、関節の可動域について 6. 血液・リンパ系・ホルモン系について 7. 特殊感覚系、生殖器、免疫系について 8. 悪性新生物 9. 生活習慣病（高血圧症・糖尿病・心疾患・腎疾患・動脈硬化など） 10. 感染症 11. 神経・精神疾患 12. 先天性疾患 13. 難病（特定疾病含む） 14. 障害の概要、その他疾病について 15. まとめ					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・提出物・筆記試験		

シラバス（授業概要）

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅢ		授業の種類 講義・演習	授業担当者
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（2単位）	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活支援技術の根拠となる知識の修得を図る [授業全体の内容の概要] 成長と発達の知識が各段階における利用者の自立に向けた生活支援技術の根拠となることに学生が気づくよう留意し授業を行う [授業修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者の身体不調の訴え等に関して、生活支援技術と関連させて具体的な支援の根拠を学ぶことができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 身支度に関連したこころとからだのしくみ（身支度行為の生理的意味と基礎知識） 2. 機能低下・障害が及ぼす口腔の清潔への影響 3. 移動に関連したこころとからだのしくみ（移動行為の生理的意味と基礎知識） 4. 安全・安楽な移動・姿勢・体位の保持のしくみ、良肢位、ボディメカニクスについて 5. 食事に関連したこころとからだのしくみ（食べることの生理的意味と基礎知識） 6. 誤嚥の予防と嚥下障害に気づく観察のポイント、脱水について、食事制限について 7. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（清潔保持の生理的意味） 8. 入浴が及ぼすからだへの負担、リラックス、爽快感を感じるしくみ 9. 排泄に関連したこころとからだのしくみ（排泄の生理的意味、便・尿の性状、量、回数） 10. 便秘・下痢に気づくためのポイント、排泄に関連する機能低下について、失禁について 11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（睡眠の生理的意味、睡眠時間とリズムについて） 12. 睡眠機能の低下と原因について（睡眠障害） 13. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（生理的な死、法律的な死、臨床的な死） 14. 終末期から危篤、死亡時のからだの理解、死に対する恐怖、不安、死の受容までの段階 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 遠藤英俊他「こころとからだのしくみ」 中央法規出版、2013		[単位認定の方法及び基準] 出席・態度・提出物・筆記試験	

平成25年度収支決算書

下関福祉専門学校
自平成25年4月 1日
至平成26年3月31日

収入の部

収入科目	区 分	金 額	備 考
児 納 童 ・ 付 生 徒 金	1 授業料	43,966,692	
	2 入学金	6,600,000	
	3 実験実習費		
	4 施設設備費	17,020,000	
	5 委託金収入	2,883,922	
	6 その他		
手 数 料	1 入学検定料	350,000	
	2 その他		
寄 付 金	1 法人団体寄付		
	2 個人寄付		
補 助 金	1 国庫補助金		
	2 都道府県補助金		
	3 市町村補助金	200,000	
資産運用収入		435	
資産売却収入			
事 業 収 入	1 補助活動収入		
	2 附属事業収入		
	3 収益事業収入		
	4 その他		
雑収入		687,510	
借等 入収 金入	1 長期借入金収入		
	2 短期借入金収入		
	3 学校債収入		
前受金収入		3,120,000	
その他の収入(預り金、仮払金、立替金等)		3,658,813	
前期末前受金		-11,880,000	
合 計		66,607,372	

支出の部

支出科目	区 分		金 額	備 考
人 件 費	教員 給与	本務教員給与	22,581,429	
		兼務教員給与	2,452,800	
	職員 給与	本務事務職員	2,350,000	
		本務教育補助員		
		兼務職員給与		
	役員報酬			
	退職金 死傷手当			
	所定福利費		3,127,236	
	その他			
教 育 管 理 経 費	1 学生諸費		1,619,730	
	2 水道光熱費		2,858,883	
	3 旅費交通費		944,834	
	4 研修費		2,720,729	
	5 広告費		5,768,711	
	6 OA機器リース料		244,383	
	7 収益事業費			
	8 雑費		2,517,191	
	9 その他		4,461,738	
施 設 費	1 土地費			
	2 建築費		749,237	
	3 資産除去支出		410,869	
設 備 費	1 図書購入費		143,904	
	2 その他			
債 務 償 還 費	1 借入金利息		432,341	
	2 学校債利息			
	3 長期借入金返済		6,000,000	
	4 短期借入金返済			
	5 学校債返済支出			
その他の支出(預り金、仮払金、立替金等)			3,314,198	
当年度収入超過額			3,909,159	
合 計			66,607,372	

項目別の自己評価表

1. 学校の教育目標

専門的知識と技術の習得に加え、豊かな感性とやさしい心を持って福祉社会に貢献出来る人材を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

・養成施設の学生減少に伴い、働きながら学ぶ者が多くなったことから、幅広い選択肢を用意し、実務者養成の研修や通信課程の設置を開始する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評 価 項 目		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
ア	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
	努力・礼節・奉仕の三信条のもと、人に信頼され、かつ人を愛し、人を信頼する人材を育成する。また、福祉の現代的な課題に対応できる介護福祉士として深い人間理解や人権尊重精神に基づき、専門的知識と実践的技能を習得することによりより福祉社会の形成に自ら貢献出来る人材を育成する。				
イ	・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
	介護実技などの実技実習は20名程度の少人数制で教員2名配置とした実技指導を行い、学生一人ひとりのコミュニケーションを大事にしている。また、少人数の実技指導の特色を生かし「自立支援」を基盤として実践に即する演習を多く取り入れている。				
ウ	・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
	高齢化率は今後も加速を続け、それに伴い福祉の専門的知識を持った人材も必要であると期待されている。そのため、一人でも多くの介護福祉士の育成に努める。				
エ	・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4	③	2	1
	パンフレットやホームページに公開している。また、学校内でも玄関や図書室に掲示し、日頃より目につくよう心掛けている。引き続き、学生・保護者に周知していただくと同時に、各高校の指導教員や地域住民への周知の必要がある。				
オ	・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4	③	2	1
	教育課程編成委員会での意見を反映し、専門的知識を持った人材を育成するために、今年度は社会労務士による経営マネジメントや介護福祉士会による個人情報の重要性などの倫理観についての授業を取り入れた。今後も社会のニーズに応えるべき展開が必要である。				

①課題

- ・社会的ニーズの変化を踏まえ厚生労働省が示す求められる介護福祉士像をもとに教育目標を設定し、体系的な教育方法を示す必要がある。
- ・各高校に学校理念・育成人材像の周知できていない。

②今後の改善方策

- ・今後も、教育課程編成委員会の意見を慎重に検討していく
- ・教務会議等で各年次の教育目標を検討し、新年度実践していく。
- ・各高校等に学校の理念や育成人材像を周知し、人材の確保に努める必要がある。

③特記事項

- ・離職者に対して介護福祉士養成(2年間)や実務者研修(6か月)を実施している。
- ・働きながら学べる通信課程を開始する。
- ・地域に貢献するため、高齢者が元気で学べるデイサービス「おとなの学校」を開校。

(2) 学校運営

	評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
ア	・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
	SG(下関学院)フィロソフィとして「全教職員の物心両面の幸福を追求すると同時に、教育関連産業を通じて、社会に貢献する」という経営理念を掲げている。	
イ	・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
	今年度7月より実務者養成の離職者訓練を開始し、引き続き継続していく予定である。さらに、働きながらの介護福祉士養成の必要性を見込み、来年度より通信課程を開始する予定。また、医療的ケアをカリキュラムに取り入れ、これからの介護ニーズに対応できるように努めている。	
ウ	・運営組織や意思決定機能は明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
	組織図により明確に役割分担、各担当が中心となり学校長と相談しながら進めている。	
エ	・学校運営は適切に行われているか	④ 3 2 1
	理事会・評議委員会を年に2回実施している。	
オ	・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
	教務会議・経理会議等で協議し、共通認識・意思統一を図っている	
カ	・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
	各実習施設と実習契約および毎年個人情報に関する契約を結び遵守している	
キ	・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 ② 1
	学生や保護者に対しては、学校説明会や入学時オリエンテーションで情報公開し、各月の時間割については、前月中旬に学生に配布している。学校情報については、ホームページにも公開しているが、周知度は低いと思われる。	
ク	・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1
	職員室のパソコンにより学校内でも情報が共有できるようにネットワークをつくっている。昨年より2台増えており効率的になった。	

①課題

- ・情報公開を拡大していく必要がある
- ・情報開示の交換や変更が遅れることがある

②今後の改善方策

- ・教員が、年数回定期的に各高校に教育活動の状況(ポスター・ちらし等)を持参し掲示してもらう
- ・役割分担を明確にして、それに応じたネットワークづくりを行い、情報開示がスムーズに行えるようにする

③特記事項

- 昨年度課題であった情報開示については、ホームページにより教育活動や教育方針を示すことによって、学校理解・周知に努めた

(3)教育活動

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
ア	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 決められたカリキュラムをもとに、教育理念である福祉社会に貢献できる人間の育成に向けて専門的知識と技術の習得に向けて指導し、評価している。	4 ③ 2 1
イ	・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 各科目の授業概要で、教育到達目標を明記し学習時間も明らかにしている。	④ 3 2 1
ウ	・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか 厚生労働省で定められた授業数に準じて計画し、各科目の担当が学習内容と授業状態を確認しながら調整している	④ 3 2 1
エ	・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか 個々に反映されているが、体系的に汎用がされていない 教員により教え方に違いがあるなどの学生より評価があるため、教員同士の勉強会など今後必要と思える	4 3 ② 1
オ	・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか 教育課程編成委員会や施設指導者会議・卒業生の意見などを反映し、また社会のニーズを踏まえながら、必要な教科は福祉と文化の中できれいに入れ授業を実施している。	4 ③ 2 1
カ	・関連分野における実践的な職業教育(実技・実習等)が体系的に位置づけられて いるか 実習期間の設定は授業内容の進行を調整し、段階的に実施している。さらに厚生労働省で定められている時間数より実習時間を36時間多く実施し、実践力を養うよう努めている	4 ③ 2 1
キ	・授業評価の実施・評価体制はあるか 1年次と卒業年次(2年生)の年度末に学生授業等の評価アンケートも実施している	④ 3 2 1
ク	・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか 学校関係者評価委員会 yearly 1回、実習施設者会議 yearly 1回行い、評価を取り入れ実施を心掛けているが十分ではない。	4 3 ② 1
ケ	・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか 学則、学校のしおりで明確にしており、入学式において保護者同席の下説明したうえで、学生にはその都度ホームルーム等で伝えている。	④ 3 2 1
コ	・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか 国家試験同等の能力を有しているかを確認する卒業時の全国一斉共通試験を実施し、実技に関しても授業の中で、計画的に実技試験を行い、国家資格と同等のレベルが身につくようにしているが、学生の能力に差もあり苦慮している	4 ③ 2 1
サ	・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか 必要人員3人のところ、介護教員研修を修了した教員を5名確保しているが、さらに教員の質を高めていくことが必要である	4 ③ 2 1
シ	・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保 するなどマネジメントが行われているか 特別授業の福祉と文化の授業で、消防署や歯科衛生士、介護予防会社等の専門の講師を依頼し幅広い視野での介護支援を目指している	4 ③ 2 1
ス	・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか 介護福祉士養成施設協会の全国大会や中四国大会に参加可能な教員が毎回参加している。また、専修学校各種学校協会主催の教職員研修にも参加し、研鑽を図り質の向上に努めている。	4 ③ 2 1
セ	・職員の能力開発のための研修等が行われているか 学校内のフィロソフィ勉強会を今年度も3回行い、職員全員参加している	④ 3 2 1

①課題

- ・学生の能力の個人差が大きくなっているため、授業以外に一人ひとりの学生に応じた指導体制が必要である。
- ・教員は各々独自で工夫し授業を行っているが、より学生に理解させる授業運営や指導方法となる具体的なアドバイスが得られない

②今後の改善方策

- ・長期休暇を利用し、学生の能力に応じた個別指導を実施していく。
- ・様々な学生がいることを認識し、学生指導能力を高めるため、各自研鑽し対応していく。
- ・各教員が新しい知識や技術を積極的に習得するため各自文献を読んだり研修会に参加していく。またDVD等を購入も進めていく。

③特記事項

- ・年1回個別の授業評価を実施し見直し、改善に努めている
- ・カリキュラム作成について、教育課程編成委員会、同窓会役員会において体系化を図っている。毎年行っている5月の実習指導者会議においても諮問し答申を求める予定である

(4) 学修成果

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
ア	・就職率の向上が図られているか 希望する就職先への内定、就職率はほぼ100%を維持している 本年度は、校内就職説明を実施し就職につながった。	④ 3 2 1
イ	・資格取得率の向上が図られているか 卒業と同時に介護福祉士の国家資格は習得でき、卒業できるよう補習等による指導を行っている	4 ③ 2 1
ウ	・退学率の低減が図られているか 今年度は退学者は2名であり、昨年度より減少している。退学を考えている学生に関しては複数の教員で学生の不安等に配慮し、必要時には保護者同席で面談を行い、学生の一番よい方法を検討する機会を設けている	④ 3 2 1
エ	・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 卒業生については、刊行物等で少ないながらも把握しており、卒業生を招いて交流会を実施している。 在校生については十分に把握できていない。	4 3 ② 1
オ	・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか レクリエーションインストラクターの資格取得や准教員研修や介護福祉士会主催の研修会等の案内も積極的に告知し参加を促している。	4 3 ② 1

①課題

卒業生の状況のアプローチ方法の検討
在校生の社会的活躍については、把握していない。
卒業後のキャリア教育形成を充実する。

②今後の改善方策

研修等に積極的に参加の声掛けを行い、教員も学生と一緒にいくことで学習意欲を高める。
学校行事の中で、学生とコミュニケーションを図り、学生から話しかけやすい体制作りを行う。
在校生の社会的活躍について、担任が4月の個別面談等で把握するよう努力する。
卒業後のキャリア形成を同窓会役員を中心に確立し、卒業生と在校生のつながりを強化し退学防止につなげていく。

③特記事項

学習能力の低い学生も個別に当たり理解度を高めるよう努めている
また、学生に対して褒めることを多くし志気が下がらないように努めている

(5) 学生支援

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
ア	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか 就職課による就職就職支援を時間割の中に組み込み、適宜就職課、担任、その他の教員が進路の相談に応じている	④ 3 2 1
イ	・学生相談に関する体制は整備されているか 毎年、新学期に個人面談を実施しているが、学生から申し出があった時には適宜対応している また、希望者には週に1日カウンセラーの教員が時間調整して対応している	④ 3 2 1
ウ	・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 授業料の分納制度、待学生制度(授業料の減免)、法人の奨学金制度等により、経済的理由で志す進路が阻害されないようバックアップしている	④ 3 2 1

エ	・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
年に1回X線撮影、検尿検便検査、内科検診を行っているが、組織体制は整備されていない。					
オ	・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の要望があれば課外活動によるポスター等の掲示を行い支援している。					
カ	・学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
学校近隣のアパートや駐車場の希望者があれば対応している 校舎には自動販売機を設置し、希望者には昼食の販売の斡旋もおこなっている 週1回のパンの販売もあり					
キ	・保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
定期試験後の報告や、その他心身や学習態度に変化が見られるとき等状況に応じて、電話連絡しているが、保護者が知らないこともあり、保護者と学生の行き違いもあるため、学生と保護者の3者面談を行っている。					
ク	・卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
卒業生に求人の斡旋を行っている。また、同窓会を通じて、各種研修会の案内、福祉関連の現況の情報提供や求人情報や案内、斡旋等を行っているが、支援体制の図式化はされていない。					
ケ	・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
施設実習にはそれぞれの家庭環境を考慮して実習先を検討している 今年度まで、2親等までの忌引きであったが、学生の要望により3親等まで忌引きとすることを来年度より学則変更を決定した					
コ	・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1
高校ガイダンスや学校説明、出前授業に参加し、福祉の現況や体験授業を行っている 昨年より、2月に開催された県内進学フェアに参加し、高校生に介護の体験を試みた					

①課題

〔 未成年者に関しては特に保護者との連携が必要であると考えていたが、未成年者に限らず
学生に応じて保護者との連携の必要性がある
健康管理の組織体制、卒業生の支援体制の図式化ができていない 〕

②今後の改善方策

〔 教員同士でも学生に関しての情報共有を行い、学校内で検討した後対応を行っていく
健康管理の組織体制、卒業生支援体制の図式化を行う 〕

③特記事項

〔 〕

(6)教育環境

評 価 項 目		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
ア	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
介護福祉学科は、必要性に対応できていると思うが、実務者研修等の研修生に対応していくためには、設備が十分ではない。 教職員トイレを廃止し学生に開放している。 また、エアコンに関しても学生より意見が様々あり検討していく必要がある					
イ	・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1
消火器や防火扉等を設置し、また避難訓練を定期的に行い、万一に備えた役割分担や避難場所の確認等を学生にも周知しているが、体制が図式化されていない					

①課題

窓から虫が入ってくるため窓が開放できない
掃除後のバケツの汚水を流す場所がない
学生や研修生に人数に合わせると、トイレの数が不十分
防災体制が図式化されていない

②今後の改善方策

室内の温度設定に関しても節電を介護に結びつけ、必要な温度・湿度設定を学び工夫していく姿勢が必要 また、除湿や網戸を設置するなどの検討が必要
トイレの増設についても検討していく必要がある
防災に対する体制を図式化していく

③特記事項

(7)学生の受入れ募集

評 価 項 目		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
ア	・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	②	1
新聞・地域の情報誌。高校ガイダンス等で学生募集の活動を行っているが、介護福祉学科の学生は減少している					
イ	・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
福祉の歴史・現状・展望を踏まえ、社会ニーズや卒業生の活躍等を具体化した情報を提供している					
ウ	・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
法人独自の奨学金制度や特待生制度等もあり、妥当であるといえる					

①課題

介護福祉士の必要性を強く訴えていく必要があり、介護福祉学科のみならず、幅広く介護福祉士の養成が必要。

②今後の改善方策

実務者養成研修の離職者訓練や通信課程を行い、一人でも多くの介護福祉士を養成していく。

③特記事項

進学フェア・高校ガイダンスにおいて、介護職と介護福祉士について、しっかり説明し、また社会ニーズにおける介護の必要性について正しい情報の周知と、興味に繋がるよう働きかけしている

(8)財務

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
ア	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1

財政基盤の基となる一定の学生数は確保している

イ	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1
---	---------------------------	---------

収支予算を基に適正な事業運営を行っている

ウ	・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
---	------------------------	---------

監査役による会計監査が適正に行われており、県の監査も毎年受けている

エ	・財務情報公開の体制整備はできているか	4 ③ 2 1
---	---------------------	---------

インターネット上及び学校内外の行事等により情報公開に努めている

①課題

福祉・医療等の分野における制度、しくみの社会的変遷に伴い、学生数の確保に大きな影響をこうむる。予算の活用が十分でない。

②今後の改善方策

予算を実績の差異分析の充実を図り、次年度予算の反映に努める。

③特記事項

(9)法令等の遵守

	評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
ア	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1

県学事課等による学校運営の審査を受け、適正な運営を心掛けている

イ	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
---	-----------------------------	---------

個人情報管理規定を作成し、職員研修等を行っている

ウ	・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
---	------------------------	---------

自己評価に基づく問題点の改善に向けて、学内、学外の研修等を利用している

①課題

自己評価実施後の結果、問題点の改善状況が明確でない

②今後の改善方策

外部研修の利用や学内における教職員研修の機会を設け、研鑽に努める
自己評価で指摘のある課題等に対しては改善計画及び進捗状況を報告する

③特記事項

自己評価、第3者評価を含めて、各自改善に努めている

(10)社会貢献・地域貢献

評 価 項 目		適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
ア	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
	学園祭に地域の方の参加や・地域ボランティア(施設訪問、小月まつり)等に参加 今年度2月10日の小月えびす祭りに参加し、駅から学校周辺の清掃活動を行った				
イ	・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
	ポスターの掲示や、HR等での声掛けを行い、関係機関との調整を行っている 参加者にはHR等で奨励している				
ウ	・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を 積極的に実施しているか	④	3	2	1
	離職者訓練の実務者研修や女性就職支援を受託した 要望があれば検討し福祉を学ぶ場として提供している				

①課題

社会貢献・地域貢献の継続が必要

②今後の改善方策

学院の文化祭等でアンケートを実施するなど地域の方の要望を聞き入れ、貢献できる活動を検討していく。

③特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・介護福祉士の養成を一人でも多く行うため、オープンキャンパス・高校ガイダンス・学校説明会などを積極的に行うとともに、教員がオープンキャンパスや入試の案内などを持参し積極的に高校訪問を実施する。
- ・介護福祉学科のみにとらわれず、社会のニーズの変化を踏まえ、離職者や働きながら学び介護福祉士が養成できるよう、介護福祉士実務者研修の継続や通信課程を開始する。
- ・教育目標の明確化、情報の共有など教職員と学生が同じ方向に向かうことができるようにする。
- ・目標達成できていない学生に対して、個別指導を長期休み等を利用して、計画的に実施していくとともに、教員自身もさらなる自己研鑽に努める。
- ・不具合な設備等に関して、改善を行い学生が学ぶにふさわしい環境づくりをしていく。
- ・地域貢献やボランティア活動に積極的に参加できるよう、地域の要望を積極的に把握していく。

(11)国際交流(必要に応じて)

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	①

・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	①
--------------------------------------	---	---	---	---

①課題

[]

②今後の改善方策

[]

③特記事項

[]

(1) 学校関係者評価の基本方針

これまで卒業年次の学生と1学年の学生を対象とした内部評価システムを構築し、実績を重ね 改善を図ってきたが、外部評価による客観的な視点による福祉業界・学校の資質向上は、卒業生・在校生・今後の入学志願者にも大きく影響を与えるものであることから、外部の第3者評価を組み込むこととした。

学校関係者評価委員会を設置し、内部の視点と外部の視点からの学校評価を進める。

具体的に、PLAN(計画)・DO(実施)・CHECK(評価)・ACT(改善)を確立する視点から以下の5点について評価を行う。

- ①各施策が現状に合うものになっているか
- ②各施策において、適切な成果指標が示されているか
- ③各施策において、適切に計画通りに実施されているか
- ④学校評価システムが適正に運営されているか
- ⑤学校評価システムが改善に運用されているか

(4) 学校関係者評価結果の活用状況 前年度実績なし。

学校評価に対する改善対策

(1)教育理念・目標

・学校の理念・目標・育成人材・特色・将来構想などを学生や保護者等に周知するために、
今後はホームページなどに掲載するほか、校舎内の教室や図書室等学生等の目に触れやすい
場所にも掲示していく。

(2)学校運営

・次年度より運営方針に沿った詳しい事業計画の文書化を図る。
・次年度より教務・財務等の組織整備など意思決定システムを整備していく。

(3)教育活動

・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れるために、次年度より実習指導者会議の
議事録を作成する。会議で出た意見はまとめて職員会議において検討し、改善していく。
・すべての研修についての議事録を作成し保管する。

(4)学修成果

・退学者の低減について、次年度より具体的数字を出していく。
・卒業生の社会的活躍などについては校内に掲示する。
・キャリア形成のための研修会を実施した時には、報告書を作成し保管しておく。その後
学校の教育活動の改善に活用する。

(5)学生支援

・学生の健康管理を担う組織体制を明確化する。
・課外活動に対する支援体制を整備するために、組織を明確にし報告書の作成をする。
・卒業生の支援体制作りのため、卒業生に対する再就職の窓口を明確化する。

(6)教育環境

・防災体制の組織化を明確にする。

(9)法令等の遵守

・個人情報に関し、その保護のための対策として、就業規則への記載と教員の個人情報保護
の契約書への署名を促していく。

(10)社会貢献・地域貢献

・学生のボランティア活動の奨励・支援について、ボランティア参加者名簿の保管と支援体制を明確にしていく。

平成26年度

学校関係者評価

学校法人下関学院
下関福祉専門学校

(平成27年3月3日実施)

学校関係者評価表

評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4	③	2	1
・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4	③	2	1

①課題

②今後の改善方策

③特記事項

(2) 学校運営

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	3	2	1
・運営組織や意思決定機能は明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
・学校運営は適切に行われているか	4	3	2	1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

①課題

②今後の改善方策

③特記事項

(3)教育活動

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	4	③	2	1
・関連分野における実践的な職業教育(実技・実習等)が体系的に位置づけられて いるか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保 するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

①課題

②今後の改善方策

③特記事項

(4) 学修成果

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

①課題

{

}

②今後の改善方策

{

}

③特記事項

{

}

(5) 学生支援

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

①課題

{

}

②今後の改善方策

{

}

③特記事項

{

}

(6)教育環境

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

①課題

[防災に対しては、毎年防災訓練を行っているが、体制の組織化が明確ではない。]

②今後の改善方策

[防災体制の組織化を明確にする。]

③特記事項

[]

(7)学生の受入れ募集

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	③	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①課題

[]

②今後の改善方策

[]

③特記事項

[]

(8)財務

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①課題

[]

②今後の改善方策

[]

③特記事項

[]

(9)法令等の遵守

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	2	1

①課題

[教員に対して個人情報保護の徹底を文書化していない。]

②今後の改善方策

[就業規則への記載と各教員にも個人情報保護の契約書への署名を促していく。]

③特記事項

[]

(10)社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

①課題

〔 学生ボランティア活動の奨励・支援は行っているが、記録として保管していない。担当者がはっきりしていない。 〕

②今後の改善方策

〔 ボランティア活動については、参加者名簿作成し、全掲示物を保管する。支援体制を組織化する。
担当者を明確にしていく。 〕

③特記事項

〔 〕

卒業生に対する支援体制について、同窓会を中心に具体的な位置づけを明確にし内容全てを議事録として残していく。
社会人のニーズを踏まえた教育環境としては、授業以外で実習室の利用は予約をすれば午後5時まで使用可能であり、また教室において自習も可能である。図書室には専門書を備え、自由に閲覧可能であり、パソコン利用も可能。

学校評価に対する改善対策

(1)教育理念・目標

・学校の理念・目標・育成人材・特色・将来構想などを学生や保護者等に周知するために、
今後はホームページなどに掲載するほか、校舎内の教室や図書室等学生等の目に触れやすい
場所にも掲示していく。

(2)学校運営

・次年度より運営方針に沿った詳しい事業計画の文書化を図る。
・次年度より教務・財務等の組織整備など意思決定システムを整備していく。

(3)教育活動

・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れるために、次年度より実習指導者会議の
議事録を作成する。会議で出た意見はまとめて職員会議において検討し、改善していく。
・すべての研修についての議事録を作成し保管する。

(4)学修成果

・退学者の低減について、次年度より具体的数字を出していく。
・卒業生の社会的活躍などについては校内に掲示する。
・キャリア形成のための研修会を実施した時には、報告書を作成し保管しておく。その後
学校の教育活動の改善に活用する。

(5)学生支援

・学生の健康管理を担う組織体制を明確化する。
・課外活動に対する支援体制を整備するために、組織を明確にし報告書の作成をする。
・卒業生の支援体制作りのため、卒業生に対する再就職の窓口を明確化する。

(6)教育環境

・防災体制の組織化を明確にする。

(9)法令等の遵守

・個人情報に関し、その保護のための対策として、就業規則への記載と教員の個人情報保護
の契約書への署名を促していく。

(10)社会貢献・地域貢献

・学生のボランティア活動の奨励・支援について、ボランティア参加者名簿の保管と支援体制を明確にしていく。

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
下関福祉専門学校	平成9年3月14日	関谷 豊	〒750-1144 下関市小月茶屋3丁目4番26号 (電話) 083-283-0294		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人下関学院	昭和39年10月1日	関谷 豊	〒750-1144 下関市小月茶屋3丁目4番26号 (電話) 083-282-0303		
目 的	介護福祉士（国家資格）の養成				
課 程 名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
福祉専門課程	介護福祉学科	昼	1916単位時間 (又は単位)	○	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	860単位時間 (又は単位)	660単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	486単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人	67人	5人	15人	20人	
学期制度	■前期：4月1～9月30日 ■後期：10月1日～3月1日		成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 優・良・可・不可	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：8月1日～8月31日 ■冬 季：12月25日～1月7日 ■学 年 末：3月25日～4月7日		卒業・進級条件	必要な単位を取得し、卒業試験を受けること。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 電話や文書による連絡を密にする		課外活動	■課外活動の種類 施設ボランティア ■サークル活動 (有・無)	
主な就職先	■主な就職先、業界 特別養護老人ホーム、老人保健施設 ■就職率 95% ■卒業者に占める就職者の割合95% ■その他 (平成26年度卒業者にに関する 平成27年3月時点の情報)		主な資格・検定	介護福祉士 教育・社会福祉専門課程専門士 レクリエーションインストラクター 准教員認定 (山口県専修学校各種学校協会主催)	
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率2.9% 平成25年4月1日在学者 69名 (平成25年4月入学者を含む) 平成26年3月10日在学者 67名 (平成26年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理 学業不振、家庭の事情による ■中退防止のための取組 適宜担任及び他職員が個人的に面談を行い、必要時には保護者面談を実施本人の希望に沿うよう努力する				
ホームページ	URL: http://www.shimonosekigakuin.ac.jp				

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

介護福祉士として即戦力となるように介護過程や総合演習を通して、あらゆる現場に対応できるようになる

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年3月10日現在

名 前	所 属
山本美佐枝	社会福祉法人下関市社会福祉協議会
鳥居紀子	一般社団法人山口県介護福祉士会
河田洋治	社会福祉法人菊水会
関谷 豊	下関福祉専門学校
松寄 芳江	下関福祉専門学校
平岡 慶介	下関福祉専門学校

(開催日時)

第1回 平成26年9月30日 14:00~15:00

第2回 平成27年3月 3日 13:30~14:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

利用者の生活の場である様々な介護現場において個別ケアを体験・学習する

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
実習Ⅰ	利用者の生活の場である様々な介護現場において個別ケア体験・学習する	きくがわ苑デイサービス 他49事業所
実習Ⅱ	介護福祉施設において一定期間以上継続して実習を行う。1段階～3段階の個別実習を行う。	特別養護老人ホームきくがわ苑h 他15施設

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

全教員が、教員の質向上を図るために、年に1回は研修に参加する

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年3月10日現在

名 前	所 属
鳥居紀子	一般社団法人山口県介護福祉士会
河田洋治	社会福祉法人菊水会
田尾 眞	小月商工振興会
黒瀬賀代子	下関福祉専門学校同窓会

(学校関係者評価結果の公表方法)

ホームページ及び学校説明会等で公表

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.shimonosekigakuin.ac.jp>

授業科目等の概要

(福祉専門課程介護福祉学科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技
○			人間の理解	介護実践の基礎となる「人間の理解」を図り、介護における尊厳の維持と自立支援の在り方について考え、心身の状況に応じた介護の在り方について考察する。	1 前	30	2	○		
○			人間関係論	ヒューマン・リレーションの概念と対人関係など発達心理学や社会心理学、及び心理・医療・教育の臨床の領域をふまえ、人間関係形成からコミュニケーションの基礎について演習を交えて授業を展開する。	1 前	30	2	○	○	
○			社会の理解	生活と福祉、わが国の社会福祉保障制度、介護保険制度、障害者自立支援制度、介護実践に関する諸制度について学習する。	1 前	60	4	○		
	○		法と人権	社会生活において法の作用や役割・人権について理解すると同時に、憲法と関係する法の基礎を理解し、介護福祉士として又は社会人として必要な法律の基礎を学び、人権意識の重要性を学ぶ	1 前	30	2	○		
	○		音楽療法	音や音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを体験し、音や音楽によるノンバーバルコミュニケーションの可能性を理解するとともに、自分自身の発見や他者理解を深める。ワークショップ中心の講義。	2 通	30	1		○	
	○		レク・野外活動	環境教育、自然とのかかわりを自然体験活動実習を通して学ぶ。自然の生態系の理解と環境教育の重要性を認識し、野外活動に必要な技術を体得する。	2 前	30	1		○	○
	○		情報処理	文書作成ソフト(word)、表計算ソフト(excel)、プレゼンテーションソフト(Powerpoint)を使用し、社会人としてまた福祉現場で必要な書類等が作成できることを目標とする実習中心の授業	1 後	30	1		○	
	○		文化と福祉	介護福祉士として期待される教養として昭和史を学び、介護福祉士として期待される教養としての知識を身につけ生活支援技術の学習の水路付けを目的とする。	2 後	30	2	○		
		○	介護保険事務	介護保険制度における介護費請求事務に対応できる実務知識の修得と、その修得した知識と技術を認定試験にて評価することにより、職業能力の向上を目指す。	2 後	30	2	○		
合計				9科目		300単位時間 (17単位)				

授業科目等の概要

(福祉専門課程介護福祉学科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			介護の基本Ⅰ	介護を必要とする人の理解を深め、人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や障害がある人への理解を深め、介護を必要とする人の生活環境の考え方を学び、生活の観点から知識を深める。	1前	30	2	○	△	
○			介護の基本Ⅱ	介護の歴史や時代の変遷、介護福祉士という国家資格の法的根拠等を踏まえ、介護概論を中心に介護の基礎的知識・技術を習得する。	1後	30	2	○		
○			介護の基本Ⅲ	誰もが人間として尊厳が守られ、生活者として主体的に生きることを可能にするための人間尊重を基盤とした「介護観」を育む。人権保障としての介護について理解する。	2前	30	2	○		
○			介護の基本Ⅳ	介護における事故防止、安全管理、健康管理の必要性と実施するための具体的な方策等、またそれに係る環境整備、関連職種・期間について習得する。	2後	30	2	○		
○			家政学概論	施設及び在宅介護において個人の人権を尊重した被服生活の支援が提供できる知識を学習する。被服の役割と日常生活での被服生活意義を理解する。	1前	15	1	○		
○			レクリエーション概論	利用者個人の自立を目標としたレクリエーション活動の支援方法について学び、福祉現場に即したレクリエーション活動の能力と実践援助能力を習得する。	1後	15	1	○		
○			リハビリテーション論	リハビリテーションへの理解と実際行われている理は日レーションを学び、介護福祉士としての役割を学ぶ。	2前	30	2	○		
○			コミュニケーション技術総論	介護を必要とする人や援助的コミュニケーションについて理解するとともに、多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるため、基本的なコミュニケーション技術の方法と内容を理解する。	1前	30	1		○	
○			コミュニケーション技術各論Ⅰ	利用者の状況に応じたコミュニケーション技術の方法と内容について事例を取り入れながらコミュニケーション能力を身につける。	1後	30	1	△	○	
合計				9科目		240単位時間（14単位）				

授業科目等の概要

(福祉専門課程介護福祉学科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			コミュニケーション技術各論Ⅱ（聴覚又は視覚）	聴覚障害について学び、聴覚障害者とのコミュニケーション技術の方法と内容を学ぶ。簡単な手話表現と読み取り。	2前	15	1	○	△	
○			生活支援技術Ⅰ	講義で知識を習得した上で演習を行い、科学的根拠に基づいた生活支援技術の取得。移動・移乗の介助、衣類着脱の基本などを演習を通じて学ぶ。	1通	120	4	△	○	
○			生活支援技術Ⅱ	講義で知識を習得した上で演習を行い、科学的根拠に基づいた生活支援技術の取得。全介助での生活支援技術を実際の事例を通して習得する。	2通	120	4	△	○	
○			家政学Ⅰ（栄養・調理）	介護福祉士の基礎となる家庭生活に関する知識・技術の修得と個人に応じた介護支援ができる能力を養い、自立に向けた家事・食事の介護について学ぶ。	1前	30	1		○	
○			家政学Ⅱ（被服・住居）	介護の基礎となる家庭生活に関する知識や技術の修得。特に住居生活基本や衣生活に関する技術を演習を通して学ぶ。	2前	30	1		○	
○			介護過程の基礎Ⅰ	生活支援を必要とする対象者の課題を理解し、目標設定のできる思考の展開を講義及び演習を通し概説する。	1前	30	2	○		
○			介護過程の基礎Ⅱ	介護過程の意義の知識を深めながら、介護過程の展開を演習を通し理解するとともに、自立支援のための介護過程の実践的展開へと発展させ、介護過程とチームアプローチの重要性を理解する。	1後	30	2	○		
○			ケアマネジメント論	利用者の理解を図りながら、必要な情報収集を行い、分析・解釈に基づいて介護内容方法を計画し、実施・評価できるように講義・演習を通して学習する。	1後	30	2	○		
○			介護過程事例演習	利用者の自立した生活の質(QOL)の向上に向けてのニーズの把握をし、個々の利用者に対し手個別の考察した計画の立案、実施、評価の流れを演習を通して学ぶ。	2通	60	2		○	
合計					9科目	465単位時間（19単位）				

授業科目等の概要

(福祉専門課程介護福祉学科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技
○			介護総合演習Ⅰ	利用者とのコミュニケーションを図りながら利用者の生活状況や生活リズム及びニーズの把握に努め、実習施設概要・基礎的な日常生活援助を理解する。実習に向けての動機づけ。	1前	30	1		○	
○			介護総合演習Ⅱ	利用者の特性に応じたコミュニケーションが図れるように事例を取り上げ、その方法について理解を深める。介護過程における情報収集・分析・統合から導き出されたニーズの捉え方を演習を通して学習する。	1後	60	2		○	
○			介護総合演習Ⅲ	個別のニーズを把握するための着眼点や観察方法について演習を通して学習する。介護実習の振り返りを行いより効果的な介護実習が行えるようにする。	2前	30	1		○	
	○		介護総合演習Ⅳ	個別の必要な情報の収集・分析・統合から生活課題を抽出し、立案・実施・評価・修正に至る一連の介護過程を実習を通して学習する。またその過程を研究し記録としてまとめ、発表する。	2後	30	1		○	
○			実習Ⅰ	訪問介護サービスや小規模多機能型居宅介護等サービスを含む居宅サービス等の施設での見学実習。利用者の生活の場である多様な介護現場において個別ケアを体験・学習する。	全	54	1			○
○			実習Ⅱ	介護福祉施設において、一定期間以上継続して実習を行う。1段階実習を1年次で行い、2年次で2段階、3段階の実習を体験・学習する。	全	432	9			○
○			発達と老化の理解Ⅰ（老年期の心理学）	エリクソンらの発達観を土台に、人間の発達過程と課題や老年期におけるは発達と成熟について学習する。高齢者の心理を理解する。	1後	30	2	○		
○			発達と老化の理解Ⅱ（高齢者と健康）	老化に伴う機能低下が日常生活に及ぼす影響や高齢者に多い疾病について理解し、生活支援技術の根拠となるようにする。	1前	30	2	○		
○			認知症の理解Ⅰ（医学的側面）	認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意志表示が困難な特性を理解する。	1後	30	2	○		
合計				9科目		726単位時間（21単位）				

授業科目等の概要

(福祉専門課程介護福祉学科) 平成25年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技
○			認知症の理解Ⅱ（介護）	認知症の介護に家族を含めた周辺の環境にも配慮すべきである。根拠に基づいた対応を学習する。	2通	30	2	○		
○			障害の理解Ⅰ（障害者福祉）	障害の概念や障害者福祉の基本を、障害者が及び心理的影響や障害の受容、日常生活への影響と関連付けて学ぶ。疑似体験などのより具体的イメージを持って障害を理解できる授業を展開する。	1後	30	2	○		
○			障害の理解Ⅱ（障害と健康）	障害(疾患)の知識及び症状とその背景や原因を知り、自立に向けて医学的・心理的理解・生活の理解・介護上の留意点を学ぶ。	2通	30	2	○		
○			精神保健	精神保健の概要、精神障害の基礎知識を理解し、介護福祉の実践に役立たせる学習をする。	1後	30	2	○		
○			こころとからだのしくみⅠ（心理学）	心の基礎知識を習得し、介護技術を実践するうえでの心理的側面への配慮について理解する。	1前	30	2	○		
○			こころとからだのしくみⅡ（人体の構造）	高齢者に多い疾病とその症状の現れ方の特徴を学び実際に生活する場面の中で理解でき、環境等により個人差があることを学ぶ。	1前	30	2	○		
○			こころとからだのしくみⅢ（生活支援関）	高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及び日常生活への影響を理解し、生活支援技術の根拠となる知識の修得を図る。	1後	30	2	○		
			医療的ケア	介護職員が医療職と適切な連携を図り、たんの吸引・経管栄養を安全かつ適切に行うための知識・技術を身につける。	全	65	4	○	△	
合計					7科目	275単位時間（18単位）				